

芦屋市史

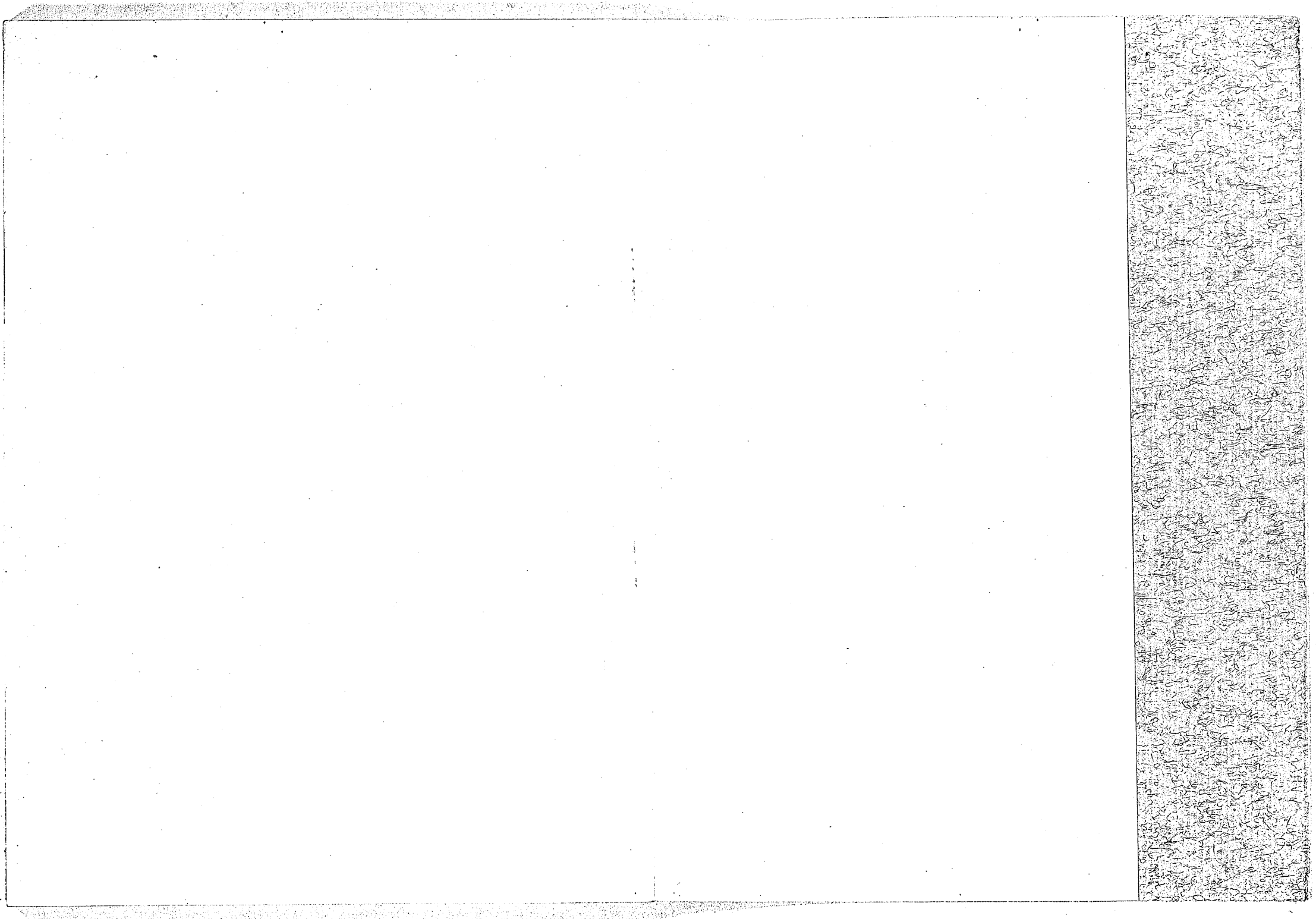
史料拾遺

芦屋市史料拾遺



兵庫県芦屋市教育委員会





昭和36年3月

各位

芦屋市教育長 清水 敬治

「芦屋市史料拾遺」を発行しましたので、ご贈呈いたします。

本書は昭和34年以降発見、蒐集された史料のうちの一部であり、西摂の菜種作地帯の農村の社会経済史料を中心とした農村生活を伝えるものです。

天保5年 芦屋村・三条村の年貢をめぐる争い
天保6年 肥料値段下げに関する提訴
宝暦～明和 人会山立入りに関する事件
文政年間 菜種売上高に関する史料
文化14年 「ふち譜」
絵図関係 境界線（芦屋・西宮）
梅谷落札
芦屋川水車絵図等

お手数ですが下記領収書をご送付下さい。

領 収 書

「芦屋市史料拾遺」 部

昭和36年 月 日

住 所

氏 名

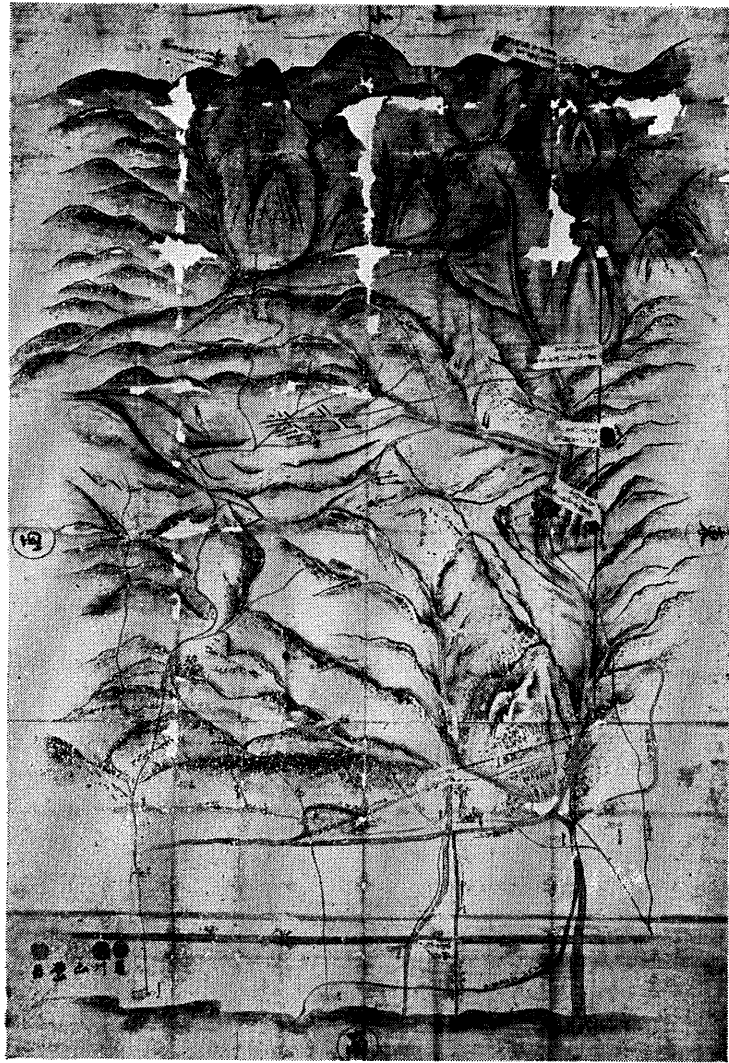
印

挟み込み

芦屋市史料拾遺

(芦屋市史追録第二号)

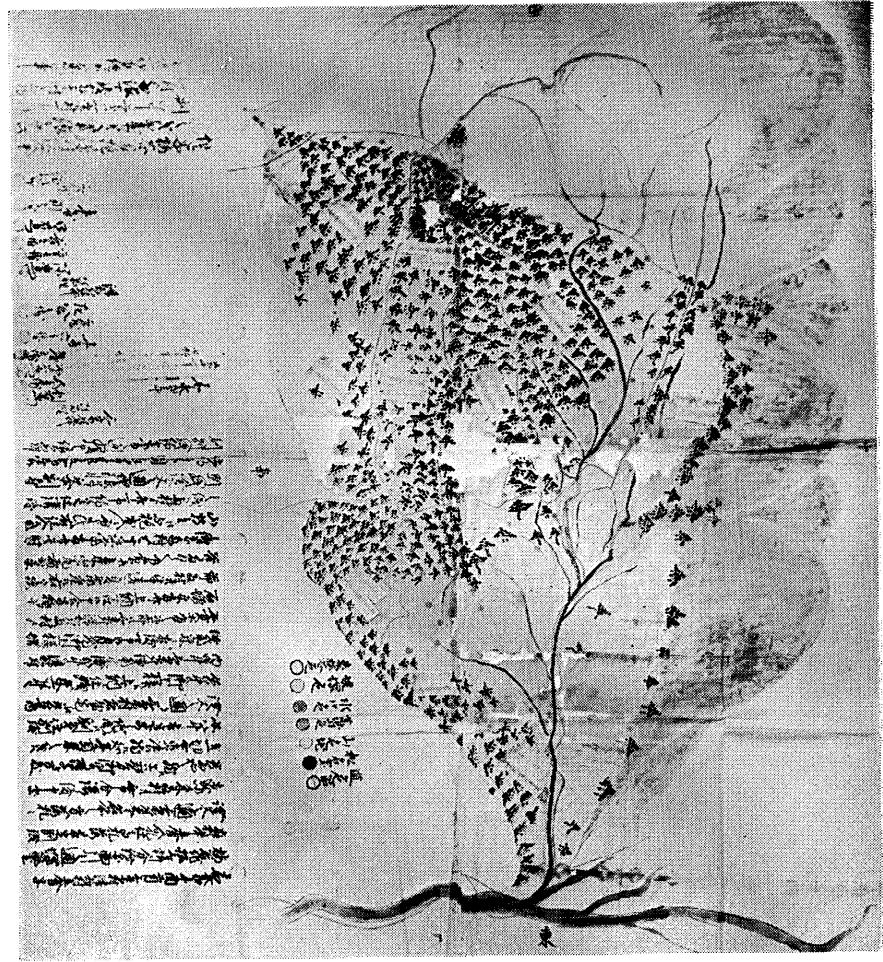
兵庫県芦屋市教育委員会



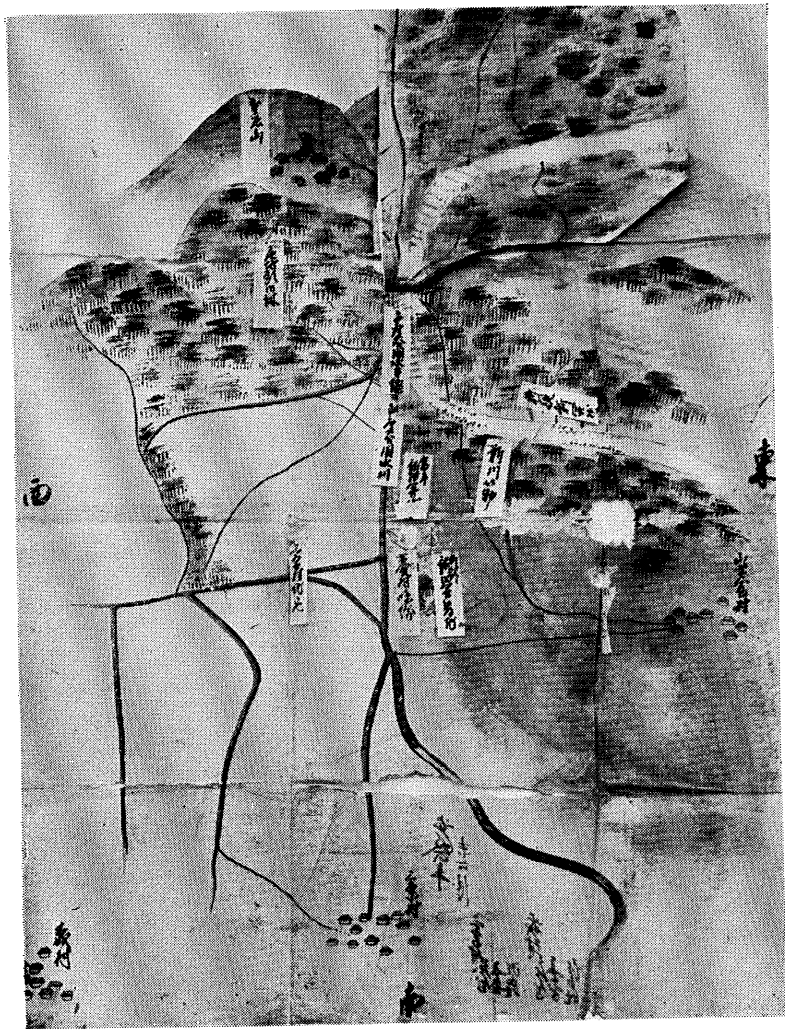
山論細引傍示所絵図 享保十三年(1728) 神戸市西垂水町 左博氏蔵



芦屋川水車絵図 安政四年(1857) 神戸市西垂水町 左博氏蔵



梅谷落札絵図 嘉永二年(1849) 神戸市西垂水町 左博氏蔵



新田開發絵図 安政六年(1859) 神戸市西垂水町 左博氏蔵

凡 例

- 一、芦屋市史の編纂は昭和三十二年度をもって完了をみているが、その節、割愛された貴重な史料と、その後発見された史料で近世に関係をもつ主なものをえらび出して編集を行なった。
- 一、編集に当っては、すでに刊行した史料編第一・第二両冊とともに本書を利用される各位の便宜を考慮して前記二集の凡例に記すところの基準をできるだけ踏襲することとした。
- 一、使用漢字は、原則として当用漢字を採用した。
- 一、史料の所蔵者の住所氏名は、年代とともに題名の下に記しておいた。
- 一、史料集の作成に当っては、各位の献身的な協力が望まれるところであることは云うまでもないが、本書の刊行に際しても實に數多くの方々の御厚意と御協力を賜わった。とりわけ旧三条村村有文書管理者井田建次郎氏には特別の配慮をわすらわした。ここに厚く感謝申し上げる次第である。

昭和三十六年三月

芦屋市史料拾遺

目次

近世編	追加	
1	村政一般	一
2	租税	三
3	土地	其
4	戸口	壹
5	入会	六
6	水車	一〇一
7	菜種売捌	一〇五
8	酒株・酒造稼	一〇九
10	その他	一一〇

芦屋市史料拾遺

1 村政一般 追加

【三条村頭百姓願書】 芦屋市三条町、左武雄氏藏
 ○明和六年（七六九）
 乍恐以書付願奉申上候

一三条村先庄屋治兵衛儀御口入米多分出米仕候ニ付返上可仕手立無御座、其上当米も不納仕、彼是差支申候ニ付、去々亥暮御勘定之節、御城下町宿迄村方ノ年寄頭百姓罷越庄屋治兵衛不納之訊御聞及之上、隣村庄屋中を以百姓共之存寄為御聞候処、何分治兵衛御米を弥増ニ相成候テハ村中安心難成旨申候、然共治兵衛内外承候所可売払家脹度も無之候へ者、御役義退候より外無之段申ニ付津知村深江村庄屋衆兩人方へ百姓共被相招、右之趣ニ治兵衛不納有之候へ共、返納手段相調不申候、然ル上ハ治兵衛退役被致候村方へ引請候存候、依之亥暮ニ御上納不足之分年寄頭百姓引請之一札差出之、治兵衛義ハ退役御願奉申上、下地御口入米者其儘拜借仕置申候ニ付、去々暮御勘定前村方へ申談候へハ、右御口入米利足凡拾俵上納可仕

之所ニ困窮之村方ニ候へ者手当テ段為申聞候得者、村方百姓共何卒御延米御願利足米ニ上納致し給候様ニと申ニ付拜借仕利足米相立申候、然ル所当月廿日切返上可仕旨先達ノ承知仕罷有候処、今以何角と申出上納ニ差支迷惑至極ニ奉存候、元來村方ノ拜借不仕杯と申候へ共、拜借人治兵衛義返納可仕手立無之故村方へなげ出し退役仕候上ハ村方へ引請可申より外ハ無御座候段、去々亥暮覺悟之義ニ御座候所、今以何角と申義早竟差支を好候様ニ相聞へ不埒千万奉存候、乍恐頭百姓御召被為成右拾俵分御延米當時無滞相立候様ニ被為 仰付被下候ハ難有可奉存候以上

明和六年八月

三条村 長兵衛

大庄屋野寄村 高井宗官様

【奉公人世話銀口上】 芦屋市三条町、左武雄氏藏
 ○明和九年（七七二）
 乍恐口上

松平遠江守殿領分振劬
 兔原郡八部郡
 式拾ヶ村
 庄屋共

一稻垣藤左衛門様御代官所同州兔原郡中尾村十右衛門与
 申者、武庫郡西宮ノ八部郡兵庫津迄灘目村々百姓方并酒
 造油稼船方其外諸商人召抱候奉公人之分、主人ニ不相構
 奉共人ノ頼候分斗と肝煎引請致世話夫々存付ケ、三月九
 日出替度毎ニ老入ノ銀式勿宛世話料申度段御願申上候ニ
 付、差構之有無可申上旨被為仰付承知奉畏左ニ奉言上候
 此段私共村々儀者早損場所并小百姓ニ御座候故、作間
 ニ近村之酒造稼又者半氣奉公ニ罷出、給銀ヲ以御年貢
 米銀御上納之手当テニ仕候百姓共ニ御座候所、繰之給
 銀ニ而口銭等差出候様相成候而者困窮之百姓御年貢之
 差支ニも相成申候、且又奉公人召抱候者ハ、右願之通
 リニ相成候得者遠近之働人も自然与無数罷成、耕作等
 も難出来候様ニ相成候而者敷敷奉存候、勿論是迄奉公
 罷出候而も主人と直相對ニ而相濟申候ニ付、半氣ニ式
 勿宛差出し而者不如意之銘々ニ御座候へ者、甚及難儀
 申候、又者召抱候者も是迄世話人無御座而候も相濟来
 リ申候、尤十右衛門申上候者、頼不来候者者世話も不

仕勿論式勿之口銭取不申趣奉承知候、何分私共方ハ口
 銭差出候而ハ難儀仕候ニ付十右衛門方へ世話頼不申
 間、十右衛門ノ心得違致右口銭請取不来候様、被為仰
 付被下候ハ、別而差構申儀無御座候、右御尋ニ付乍恐
 以書付奉申上候、以上
 明和九辰年二月廿九日
 式拾ヶ村
 庄屋共
 連印

御奉行様

【寺社池川外委細控帳】
 芦屋市三条町、左武雄氏藏
 ○安永四年(七七五)

安永四年三月改
 寺社池川其外委細控帳
 野寄組三条村

一向宗
 一寺 菅ヶ所 照樂寺
 一寺 寺号斗 宗円寺
 一八幡宮石社(ツ) 菅ツ

御地頭様へ差上申候

一春日大明神 小森 屋敷計 松木菅本
 一弁才天女 屋敷計 松木四本
 一天日如来 屋敷計 松木三本
 一山 神 屋敷計 松木拾貳本

一酒株三ツ 一酒株三ツ
 七拾石株 寬文六年改
 拾三石株 元禄十五年改
 四石三斗三升三合株 正徳五未年改

一柄在家六人
 日雇持世渡仕候者共

一他国へ持ニ上下仕候者拾貳人

一米踏水車壹輛
 安永三年御願申上候
 申年迄三ヶ年間御冥加銀御免

持主
 仁兵衛

芦屋村領境
 一高座谷井堰堤之分
 凡間敷七拾間
 右井堰ノ森村領境迄

右水車久兵衛願主凡九拾年余年号不知れ
 拾年以前ノ休申居申候

此間凡四百七拾七間
 加むり郷横川通
 右之内

一米踏水車壹輛
 廿五年以前御願申上候
 御冥加銀八匁六分

持主
 茂兵衛

御普請所并手四ヶ所
 一かむり郷掛り用水小川 九筋
 内

持主
 久兵衛

御普請所并手 四ヶ所

一樋下川筋 凡間数貳百間

御普請所

一東川筋芦屋筋ノ森村境迄

凡貳百七拾六間

内

百拾八間ケ間并手壹ヶ所

御普請所

一岡山道筋并手 壹ヶ所

御普請所

一六条川用水

横川并手下津知村境迄

凡百四間 用水并手六ッ

御普請所

一清水川上ノ津知村境迄

凡貳百拾八間

内并手壹ヶ所

御普請所

一あぜ垣内用水川分水合石ノ

凡百五拾六間

右合石分水

御普請所 但升合

字名高嶋

一池床 壹ッ

御願申上候年数知レ不申

同所除川

御普請所

字名河原

一用水取池 壹ッ

同 取池 壹ッ

同 取池 壹ッ

御願申上候年数知レ不申候

御普請所

【困窮者手当願書】

青屋市三条町、左武雄氏藏

○安永六年(一七七七)

乍恐以書付奉願上候

一私共村又四郎与申者、柄在家年七十六ニ罷成若年ノ身分不具成者ニ而世渡業無之、綿打世渡仕罷有候年罷寄リ尤セ俸共四人家内六人御座候へ共不仕成者共ニ而、他借ニも相成候者共ハ病身ニ而親育候義ハ得不仕、女房共手業ニ而ハ世渡難出来甚敷敷者共ニ奉存候、是迄村方ノ年

々相成之方合も仕候へ共、近年窮之村方故相続不申難儀

仕罷有候、何卒御憐愍之上御手宛成被為下候様奉御願申

上候、右願之通被為仰付被下候ハ、御慈悲難有可奉存

候、以上

安永六四年二月

三条村庄屋

長兵衛

同村年寄

仁兵衛

同

八郎兵衛

岡部奥太夫様

【銀子返済願書】

青屋市三条町、左武雄氏藏

○安永十一年(一七八二)

乍恐書付以御願奉申上候

一私儀実父久兵衛先年酒造商売仕候節、同村与兵衛与申者

へ酒代銀百八匁三分并銀子四百匁都合五百八匁三分貸置

申候処、其後段々催促仕候へ共埒明不申候、勿論先年御

上様江御差上候銀子頂戴仕候程之私困窮ニ御座候、尤私

同用之暮居仕候与兵衛儀ニ御座候へ者、同様御上様江御

若勞御かけ申上間敷候へ共、右与兵衛當時益身宜敷相暮

居申候ニ付、又々催促仕候へ共我儘ニ申、埒明不申候、

渡々御苦勞千万恐多奉存候へ共、乍恐右与兵衛被為御召出、右之銀子相渡相済候様、被為仰付被下候ハ、広太

之御慈悲難有可奉存候、以上

安永十一年正月

願主三条村

久兵衛

御奉行様

【高嶋池込水溝筋地床取替証文】

神戸市垂水区、左博氏藏

○文化四年(一八〇七)

為取替申一札之支

字寺之内 丑寅之方ノ未申之方西畑境迄

一溝筋地床 長七拾三間幅三尺

此溝成米壹斗五升

右溝筋地床之儀者、其元所持之御年貢地ニ罷在候処、

此度村方勝手ニ付高嶋池江込水之溝筋ニ致度候ニ付、

相对之上右地床借請新溝筋堀立申、以來此溝成米とし

て毎年米壹斗五升宛無滞其元江相立申候、然ル上ハ毎

年溝凌之儀ハ、村方ノ勝手ニ可致候、若又水込候節溝

筋江土砂流入候ハ、村方ノ人足ヲ以垣之外江荷出さ

せ可申候、且溝筋損し所出来申候節ハ、其元ノ早速取

繕ひ可被致候、若又右溝筋後、年ニ至不用之節ハ、村

方々溝筋取相渡し可申候、其節ハ為取替証文互ニ差戻し可申候、右之通為取替証文ヲ以相究候上ハ相互ニ新規之取望申間敷候、為後日之、如件
文化四卯年六月

三条村惣百姓代 又兵衛

同 断 四郎兵衛

同村年寄 六兵衛

同村庄屋 作兵衛

同村 茂兵衛殿

○同年月、茂兵衛ヨリ同村役人中、惣百姓中宛の取替証文一通アリ

【諸事儉約申合】 芦屋市三条町、左武雄氏藏

○文化十四年(一八一七)

儉約料覚

一ひな物

銀拾匁

同八匁

上分

中分

御触被為成下、全御仁恵ニ依而其以來直段引下ケ、諸品手入不仕正路之売買仕候様相成、百姓一同難有奉存候、然ル所年久敷相成右売買ニ携るもの共御触渡忘却仕、天明八申年奉願上候願面之趣意へ立戻り、近年へ買品、手入等仕、不正之肥類諸品高直ニ相成、難渡至極仕、不恐願奉願上候
一 近年違作統之上、取分昨年ハ別而米穀高直ニ付、百姓一同困窮弥増し昼夜相敷罷在候所、御仁恵之御取締被為成下、去冬以來米穀下直ニ相成、一同安堵農業仕眞加至極重、難有奉存候、然ル所百姓共耕作第一ニ相用候干鰯油糟焼耐粕其外諸肥類、近年案外高直ニ相成、剩色々交もの等手入仕候得共、縦令何程直段相進候而も、常例之通り肥不仕候而ハ、夏冬兩作共出来劣候故手薄之百姓難及力ニ、自然与肥用方相減作柄出来劣御収納ニ差支候哉ニ重、歎ケ敷奉存候、且又油之儀者、当春米下直ニ相成候様御取締被為成下難有御仰奉存候然ル所前段之始末ニ而肥類ニ限り高直ニ相成、自然与肥し用方相減、其上去冬ハ当春米晴雨不順ニ而、例年ハ菜種麦作共四五部毛之出来柄ニ而、尤裏毛与ハ乍申麦ハ百姓年中食用にて、菜類ハ売払代銀を以稻作木綿

同三匁 下分

一職物 右同断

一禪門尼之節同行中江齋非時相止

銀拾匁 禪門

同五匁 尼

一智餅舅餅嫁之土産もの相止

銀三匁

一親年忌ニ相当り節供養相止

銀式匁

右之外諸事村中賦物致候事堅無用

一志之日茶賣賣無用

右儉約料其節之世話方江持參可致候

右之通此度村中參会之上五ヶ年之間堅可相守候事

文化十四年丑五月

組頭中

【諸肥直段引下敷願書】 神戸市垂水区、左博氏藏

○天保六年(一八三五)

諸肥類高直ニ付敷御願

一 寛保三亥年宝曆三酉年天明八申年、諸肥類高直ニ付難渡御敷、撰河州村、奉願上候所、正路之売買仕候様

作之肥仕入手当ニ仕候所、前段之振合ニ而一同肥手買入難出来、都而兩作共実入無数ニ仕而ハ弥困窮弥増、御年貢筋ニ相聞可候哉と歎ケ敷奉存候、依之百姓共一同相統難相成必至ニ付、不得止事、乍恐此段奉願上候前書御敷奉申上候通、難渡之始末被為聞召訊、右干鰯油糟焼耐粕其外雜肥類、在町共取扱之もの共へ買元直段引下ケ下直ニ仕、勿論ハ買ハ売或ハ交もの手合等不仕、正路ニ売買仕候様御取締之上、在町共嚴敷御触流被為成下度奉願上候、何卒格別之御憐愍を以願之通御聞濟被為成下候ハ、广大之御慈悲数多之百姓末々ニ至ル迄、一同難有仕合ニ可奉存候、以上
天保六年五月廿一日

右惣代

新兵衛印

善五郎印

与右衛門印

伝左衛門印

新五郎印

御奉行様

【諸肥直段書上】 神戸市垂水区、左博氏藏

○天保六年(一八三五)

乍恐口上

御料所撰河州村、惣代共

一近年諸肥類高直ニ付、百姓一同難渋仕候ニ付、去ル廿一日、御歎奉願上候処、去ル文政二卯年御仁惠ヲ以、諸式下直之義御触渡被為成下候、已来右諸肥直段下之義、巨細可奉申上旨被為仰付、一同承知奉畏、依之年恐左ニ奉申上候 文政二卯年米五拾四匁式分三リ壹毛

一干鯛四拾貫目壹駄ニ付銀九拾五匁三分
一油糟但種糟百玉ニ付銀三百八拾目
綿実糟百玉ニ付銀貳百七拾匁

一小便

文政三辰年米六拾三匁式分五毛

一干鯛右同断壹駄ニ付銀九拾目六分
一油糟 種粕百玉ニ付 銀三百六拾目
綿実粕百玉ニ付 銀貳百三拾七匁

一小便

文政四巳年六拾九匁八分五厘

一干鯛右同断壹駄ニ付 銀八拾五匁
一油糟 種粕百玉ニ付 銀三百七拾匁
綿実糟百玉ニ付 銀貳百四拾八匁

一小便

文政九戌年六拾九匁八分壹厘九毛

一干鯛右同断壹駄ニ付銀百拾匁
一油糟 種粕百玉ニ付 銀四百六拾匁
真粉粕百玉ニ付 銀三百三拾六匁

一小便

文政十亥年六拾五匁四分六毛

一干鯛右同断壹駄ニ付 銀百八匁
一油糟 種粕百玉ニ付銀三百式拾匁
真粉粕百玉ニ付 銀貳百七拾匁

一小便

文政十一子年八拾八匁四分四厘五毛

一干鯛右同断壹駄ニ付 銀百拾四匁
一油粕 種粕百玉ニ付銀四百五拾匁
真粉粕百玉ニ付 銀三百式拾三匁

一小便

文政十二丑年七拾八匁九分壹毛

一干鯛右同断壹駄ニ付 銀百三拾六匁
一油糟 種粕百玉ニ付 銀四百七拾匁
真粉粕百玉ニ付 銀三百三拾五匁

一小便

文政五年年六拾七匁八分壹厘

一干鯛右同断壹駄ニ付 銀七拾六匁
一油糟 種粕百玉ニ付 銀三百式拾目
綿実糟百玉ニ付 銀貳百五拾目

一小便

文政末年六拾七匁七分九厘六毛

一干鯛右同断壹駄ニ付 銀八拾三匁五分
一油粕 種粕百玉ニ付銀三百三拾目
真粉 粕百玉ニ付銀貳百拾八匁

一小便

文政七申年六拾八匁九分五厘六毛

一干鯛右同断壹駄ニ付 銀七拾九匁
一油糟 種粕百玉ニ付銀三百五拾匁
真粉百玉ニ付銀貳百四拾四匁

一小便

文政八酉九拾式匁壹分五厘五毛

一干鯛右同断壹駄ニ付 銀百拾式匁
一油糟 種粕百玉ニ付銀四百目
真粉粕百玉ニ付 銀三百拾八匁

一小便

文政十三寅年九拾匁七分六厘六毛

一干鯛右同断壹駄ニ付 銀九拾式匁
一油糟 種 百玉ニ付 銀四百式拾匁
真粉粕百玉ニ付銀三百式拾匁

一小便

天保貳卯年八拾匁四分壹厘

一干鯛右同断壹駄ニ付 銀百拾匁
一油糟 種 百玉ニ付 銀四百五拾匁
真粉 百玉ニ付 銀三百式拾五匁

一小便

天保三辰年八拾目五分三厘式毛

一干鯛右同断壹駄ニ付 銀九拾九匁
一油糟 種 百玉ニ付 銀四百八拾匁
真粉 百玉ニ付 銀三百三拾匁

一小便

天保四巳年百拾六匁

一干鯛右同断壹駄ニ付 銀百四拾六匁
一油糟 種 百玉ニ付 銀五百九拾目
真粉 百玉ニ付 銀三百八拾五匁

一小便
 天保五年九拾三匁式分五厘九毛
 一千兩右同断老駄ニ付 銀百四拾八匁
 一油糟種 百玉ニ付 銀六百貳拾目
 真こ 百玉ニ付 銀三百八拾目

一小便
 一千兩右同断老駄ニ付 銀百四拾目
 一油糟種 百玉ニ付 銀六百四拾匁
 真こ 百玉ニ付 銀三百六拾匁

右者年々百姓共買入候直段書面之通り相違無御座候、尤所ニ寄少、宛高下不用等御座候得共、御当地近村之分荒増取調奉書上候間、乍恐此段御賢察之上、何分厚御憐愍之程偏ニ奉願上候、以上
 天保六年五月廿八日
 御奉行様

(表紙)
 天保十五年 郡家組
 来ル已春池御普請願帳
 辰九月吉日 津知村

字ほうと
 一新池沓ヶ所 東西拾貳間 南北六間 繕

此杭木式百四拾本 長六尺
 野柴 六十束
 同所
 一鳥居木三本内 式本 長六尺
 沓本 長五尺
 一同池建樋 皆造
 一同池樋 皆造

上切口式間半 下切口五尺 敷四間 馬踏式間 高沓間半
 七坪八厘
 此 人足三十五人四分 坪 五人掛
 一同池刃金 上切口式間半 下切口五尺 下り式間 土厚三尺
 此 沓坪六分七厘
 人足式十五人五厘
 坪十五人掛
 一同所種尻繕

【天保十五年津知村池普請願帳】
 神戸市垂水区、左博氏藏
 ○天保十五年(一八四四)

杭木七十五本 長六尺
 野柴 十五束
 人足式十人
 同所

東西拾貳間 南北六間 深貳つ堀
 一同池庭
 式拾沓坪七分八厘
 此 人足百五十式人四分六厘 坪七人掛
 同所
 一井戸皮 式ヶ所 繕
 但し長四尺側式本
 此代り木三本 三尺五寸廻り 枝柴とも

同所
 一土木四本 沓長間半
 此杭木十本 同四尺
 右之寄
 杭木合三百貳拾五本
 分 三百十五本 長六尺
 十本 長四尺

野柴合七拾五束
 鳥居木合三本
 分 式本 長六尺

沓本 同五尺
 土木四本 長沓間半
 人足合式百三拾式人九分沓厘
 代り木合三本 三尺五寸廻り 枝柴とも

右之通り来ル已春池御普請奉願上候、何卒御見分之上右願之通り、被為仰付被下候ハ、難有奉存候、以上
 天保十五年辰九月
 津知村年寄 五郎兵衛(印)
 同村庄屋兼帯 三条村庄屋 八郎兵衛(印)

樋方 御奉行様
 前書来已春御普請御入用奉願候通相違無御座候、以上
 辰九月
 大庄屋郡家 平野 順治(印)

前書之通来已春普請申付候間、兪株無之様入念可仕立もの也
 片岡惣左衛門(印)
 内山 左太夫(印)
 伊与田作大夫(印)
 大久保 波江(印)

2 租 税 追 加

【三条村安永二年免割目録】 芦屋市三条町、左武雄氏蔵

○安永二年(七七三)

已歳免割目録

一高百九拾七石四斗九升
三石八斗式升五合

内 本田之内早稻已検見引

拾三石六斗八升三合

本田方之内已検見引

小以拾七石五斗八合

残百七拾九石九斗八升式合

毛附高

分

一 百七拾壹石八斗九升三合 田方

取米百三拾九石式斗三升三合 八ッ壹分

八石八升九合

畑方

取米四石三斗六升八合 五ッ四分

一高式石五斗壹升壹合

同村新田

取米壹石八升

四三分

一高式斗七升六合

正徳三已改 新畑

一拾六匁六分壹厘九月八日入用長兵衛殿取かへ

一五五厘

右同断嘉右衛門取かへ

一六匁四分

右同断八郎兵衛取かへ

一五匁六分

右同断又兵衛取かへ

一貳匁

右同断長兵衛取かへ

一六匁

今日茶代

銀 〆 四百拾三匁六分式厘

五十三匁かへ

此米七石八斗壹升

米 〆 四石六斗壹升三合

米 〆 拾式石四斗式升三合

此掛りもの 六歩三厘当ル

一米九石九斗壹升四合

田方延口米

此わり五歩

御免八ッ壹歩

掛りもの六歩三厘

延口割五歩

田方免合九ッ式歩五厘

取米六升壹合 式ッ式歩

一高壹石四斗壹升五合 享保五子同六丑改 新畑

取米式斗八升三合 式ッ取

一高式斗七合 享保九辰改 新田

取米三升九合 壹九歩

一高壹斗三升壹合 寛延式已改 山新畑

取米壹升三合 壹ッ取

取米合百四拾五石七升七合

一米壹俵式斗七升 享保八卯同九辰改 山見取米

一米三斗 元文三年改 山見取米

一銀三百式拾三匁式分五厘 組割

一米壹石三斗壹升三合 同断

一銀四拾五匁三分六厘 右者本田新田共

一米壹石九斗 狩人割

一米四斗 庄屋給

一七匁八分五厘 尼宿払

一米壹石 小橋屋払

一米壹石 船賃払

一八石八升九合 畑方

取米四石三斗六升八合

三斗六合延口米

此掛りもの三歩九厘

掛りもの六歩三厘

御免五ッ四歩

畑方免合六ッ五歩

一米七升七合 新田延口米

此わり三歩四厘

御免四ッ三歩

同村新田免合四ッ七歩

一米四合 新田

免合式ッ四歩

享保九新田延口米

此わり壹歩

御免壹ッ八歩

一米三合三斗 免合壹ッ九歩

右之通村中立会致算用仕候、若相違御座候ハ、重而算用可仕候、以上

安永式年
巳十一月廿三日

三条村中

同村庄屋 長兵衛殿

【三条村安永五年免割目録】
○安永五年(七七〇)

安永五申歳免割目録

一高百九拾七石四斗九升

拾石六斗三升壹合

早申検見引

内 拾式石九斗貳升三合

晚稻申検見引

小以式拾三石五斗五升四合

残百七拾三石九斗三升六合

毛附高

訳

一百六拾五石八斗四升七合 田方

取米百三拾式石六斗七升八合八ッ取

八石八升九合 畑方

取米四石貳斗八升七合 五三歩

一高貳石五斗壹升壹合 同村新田

取米壹石八升 四三歩

一高貳斗七升六合 正徳三巳改 新畑

取米七升壹合 式貳分

一高壹石四斗壹升五合 享保五同子六丑改 新畑

取米貳斗八升三合 式ッ取

一高貳斗七合 享保九辰改 新田

取米三升九合 壹九分

一高壹斗三升壹合 寛延式巳改 山新畑

取米壹升三合 壹取

取米合百三拾八石四斗四升壹合

一米壹俵貳斗七升 享保八卯同九辰改 山見取米

一米三斗 元文三午改 山見取米

一銀三百貳拾三匁貳分五厘 組割

一米壹石貳斗三升貳合 同断

一銀四十六匁五分三厘 狩人割

一銀貳拾六匁九分五厘 大廻り入用

西宮

此掛りもの七分六厘

延口わり五歩七厘

田方免合九ッ 三歩四厘内七厘過之
(有徳)

右之内七厘過有之候細見入用故帳ニ取申替ニ候
式歩七厘ニ当り

一八石八升九合 畑方

取米四石貳斗八升三合

三斗五合延口米

此わり三歩八厘

掛りもの七歩六厘

又未年不足三厘

御免五ッ三歩

畑方免合六ッ四歩七厘

一米七升七合

新田延口米

此わり三歩四厘

御免四ッ三歩

同村新田免合四ッ七歩

一米四合

免合式ッ四歩

新田

一米貳斗 松井吉右衛門

一銀三匁 米入用

一米六斗四升 長兵衛殿取かへ

一米壹石貳斗 粗まとひ

一米四斗 船ちん

一米壹石九斗 尼町宿

一銀五匁 庄や給

一銀三匁 今日茶代

一米貳石四斗七升 米入

銀合四百七匁七分三厘 御拜借米

此米 五十九匁かへ 四歩わり

六石九斗壹升壹合

米合八石四升貳合

惣米合拾四石九斗五升三合

高百九十七石四斗九升ニわれば

此掛りもの七歩六厘

一米九石四斗四升七合 延口米

此掛りもの五歩七厘当ル 外ニ七厘過有之

御免八ッ

享保九新田延口米

此わり壹歩

御免壹ツ八歩

一米三合三勺 免合壹ツ九歩

右之通村中立会算用仕候、若相違御座候ハ、重而算用可仕候、以上

安永五申十一月廿六日

三条村中

同村庄や

長兵衛殿

【三条村安永七年免割目録】

芦屋市三条町、左武雄氏蔵
○安永七年(七七八)

安永七戌歳免割目録

一高百九拾七石四斗九升

分

百八拾九石四斗壹合

取米百五拾壹石五斗式升壹合

八石八升九合

取米四方式斗八升七合

一高式石五斗壹升壹合

取米壹石八升

一米壹石九斗

一米四斗

一米式斗

一米三俵

一銀五匁

庄屋給

西宿

西宮

松井

船賃

今日茶代

銀ノ三百五拾八匁八厘

五十五匁かへ

此米六石五斗壹升壹合

米ノ四石九斗三升式合

惣米合拾壹石四斗四升三合

百九拾七石四斗九升二割八

此掛り物五歩八厘

一米拾石七斗八升九合

此わり五歩七厘

御免八ツ

掛り物五歩八厘

延口割五歩七厘

田方免合九ツ壹歩六厘

正徳三巳改

一高式斗七升六合

取米六升壹合

一高壹石四斗壹升五合

取米式斗八升三合

一高式斗七合

取米三升九合

一高壹斗三升壹合

取米壹升三合

取米合百五拾七石式斗八升四合

一米壹俵式斗七升

一米三斗

新畑

式ツ式分

新畑

式ツ取

新田

壹ツ九歩

山新畑

山新畑

壹ツ取

山見取米

山見取米

元文三年改

山見取米

組割

同断

狩人割

米入造用

茶船賃

酉ノ年壹厘預算用ニ入済

一八石八升九合

取米四石式斗八升三合

三斗五合延口米

此わり三歩八厘

掛り物五歩八厘

御免五ツ三歩

畑方免合六ツ式歩七厘

一米七升七合

新田延口米

此わり三歩四厘

御免四ツ三歩

同村新田免合四ツ七歩

一米四合

免合式ツ四歩

享保九新田延口米

此わり 壹歩

御免壹ツ八歩

一米三合三斗 免合壹ツ九歩

右之通村中立会算用仕候、若相違有之候ハ、重而算用可仕候、以上

安永七戌年

十一月廿一日

庄屋

長兵衛殿

村中

【年貢并諸入用出入内済取替証文】
神戸市垂水区、左博氏藏○天明八年(八二二)

為取替証文

一此度去未御年貢并諸入用之儀、及出入願上候処、御糺之上対談致候やう被為仰付、依対談之儀を内済、左之通

一御高巻石

但十ヲ式分取立

内

六分方

正大豆

但シ御直ニ而

上納

十分巻

右同断

上納

三分巻

右同断

上納

外ニ掛物

御国役

郡中

納入用

三品限

右先年之通十ヲ式分ニ而取立仕候、尤前文之外、高掛リ諸入用旁一切懸不申善ニ及対談、然上者以来相互ニ何之申分無御座候、為取替証文、仍而如件

深江村百姓惣代

惣左衛門(印)

天明八年

申十一月

年寄

善 八(印)

同断 新兵衛(印)

庄屋 源次郎(印)

三条村出作衆中

庄屋

八郎兵衛殿

右之通相違無御座候、以上

暖人 重 助(印)

【三条村文政五年免割目録】

神戸市垂水区、左博氏藏
○文政五年(八二二)

(表紙)

文政五年免割目録帳

一高百九拾七石四斗九升	三条村
分	
百八拾九石四斗壹合	田方
取米百四拾九石六斗式升七合七九分	
八石八升九合	畑方
取米四石式斗八升七合	五三分
一高式石五斗壹升壹合	同村新田
取米壹石八升	四三分
	正徳三巳改
一高式斗七升六合	新畑
取米六升九合	式五分
	享保五子同六丑改
一高石四斗壹升五合	新畑
取米式斗八升三合	式取
	享保九辰改
一高式斗七合	新田
取米三升九合	壹九分

一高壹斗三升壹合	寛延二巳改
取米三升三合	山新畑
取米合百五拾五石四斗壹升八合	式五分
一米壹俵式斗七升	山見取米
	享保八同九辰改
内式斗	山見取米
残壹俵七升	上納
一米三斗	元文三年改
一銀式百六拾九匁五分五厘	山見取米
一米壹石壹斗八升四合八匁	組割
一銀六拾匁	同断
	午年凡手当
一同式拾八匁	送り物入用
一銀式拾三匁壹厘	午年凡手当
一米壹石九斗	御国役銀
一同四斗	狩人割
一同壹石式斗	庄屋給
	尼宿米
	船賃米
一同六升	田中出口
	井戸年貢米

同壹斗五升 高崎池川手 年貢米
 同貳斗 西宮人足 宿米
 同三斗五升 今日造用
 同貳升四合 番人屋敷年貢
 一銀六匁 仲脊實
 一同四匁五分 米勤入用
 一米壹斗 阿るき合力
 一同壹斗 番人合力
 銀三百九拾壹匁六厘
 此米七石三斗七升八合五勺
 米五石四斗六升八合八勺
 惣米合拾貳石八斗四升七合三勺
 内壹斗九升八合 巳年人足扱米
 引残米 残作兵衛入
 拾貳石六斗四升九合三勺
 此わり六歩六厘八毛
 一米拾石六斗五升三合五勺 田方 延口米

此わり五歩六厘三毛
 御免七ツ九歩
 田方免合九ツ壹分三厘壹毛
 一米八石八升九合 畑方
 取米四石貳升六合
 此懸り物 五歩六厘
 延口割 三歩七厘
 畑方免合六ツ貳歩三厘
 一米七升壹合 新田延口米
 此わり三歩四厘
 御免四ツ三歩
 同村免合四ツ七歩 享保新田
 一米四合 延口米割
 一同三合三勺
 免合壹ツ九歩
 右之通村中致立会之上算用仕候、若相違御座候ハ、重
 而算用可仕候、以上
 文政五年年 十二月 三条村 惣百姓
 村方中

【三条村天保十二年免割目録】
神戸市垂水区、左博氏蔵
 ○天保十二年(一八四一)

(表紙)

天保十二年
 丑歳 免割目録
 丑十二月吉日

一高百九拾七石四升 三条村
 内貳拾六石八斗壹升六合
 本田方之内丑検見引
 残百七拾石六斗七升五合 毛附高
 分
 百六拾貳石五斗八升六合 田方
 取米百貳拾五石壹斗九升壹合 七七分
 八石八升九合 畑方
 取米四石貳斗八升七合 五三分
 一高貳石五斗壹升壹合 同村新田
 取米壹石八升 四三分
 正徳三巳改
 一高貳斗七升六合 新田
 取米六升九合 貳五分

享保五巳同六丑改 新畑
 一高壹石四斗壹升五合 貳取
 取米貳斗八升三合 享保九辰改 新田
 一高貳斗七合 壹九分
 取米三升九合 寛延二巳改 山新畑
 一高壹斗三升壹合 山新畑
 取米三升三合 貳五分
 取米合百三拾石九斗八升貳合
 享保八卯同九辰改 山見取米
 一米壹俵貳斗七升 成木悪敷ニ付寛政五
 丑当分用捨
 内貳斗 上納
 残壹俵七升 寛文三午改 山見取米
 一米三斗 組割
 一銀貳百九拾七匁三分 同断
 一米壹石壹斗九升八合五勺
 代百五匁七分八厘
 一貳拾匁 組諸入用追割手当
 庄屋給
 一米壹石九斗

一米四斗
 一米式斗
 一米式升四合
 一米三斗五升
 一米壹斗五升
 一銀四匁八分
 一同五拾匁
 一五匁
 一銀貳拾匁
 一同五拾五匁
 一壹匁五分
 一百五拾匁
 一米壹石
 一九匁五分
 一米四斗
 一米壹斗
 一貳拾五匁
 一九匁五分

尼宿米
 西宮宿米
 番人屋鋪
 今田造用
 高嶋池川手年貢米
 米動入用
 送り物凡手当
 尼年玉
 庄屋紙代
 御国役凡手当
 中札代
 東川出入ニ付凡手当
 船ちん米
 中脊ちん凡手当
 初年貢五俵仕立まとい
 あるき
 分力
 東川出入并用心ニ付
 少々勤料六兵衛殿江
 庄屋殿江当年限り
 高物入用いろく割

違出又当年限り
 銀七百五拾三匁三分八厘
 此わり三匁七分三厘
 米四石五斗式升四合
 此わり式分六厘五毛
 米九石三斗式升六合
 此わり五分四厘七毛
 御免合八ツ五步壹厘貳毛
 畑方御免合六ツ壹分壹厘貳毛
 同村新田御免合
 五ツ壹步壹厘貳毛
 正徳三已改御免分
 三ツ三分壹厘貳毛
 享保五子同六丑改新田御免合
 式ツ八分壹厘貳毛
 享保九辰改新田御免分
 式ツ七分壹厘貳毛
 寛延式已改山新畑御免分
 三ツ三歩壹厘貳毛

四ツ壹步八厘七毛九匁

右之通村中立会之上免割勘定仕候、若算用相違御座候ハ、
 重而算用可仕候、尤御冥加年限中村申合之上ニ而、
 右之通御立会取立可被下候、右年限相済候ハ、先規之
 通免割可仕候、以上
 天保十二年
 丑十二月八日

三条村
 年寄
 六兵衛
 惣
 百姓
 庄屋
 八郎兵衛殿

【三条村嘉永二年免割目録】
神戸市垂水区、左博氏蔵
 ○嘉永二年(一八四九)

(表紙)

嘉永二酉年
 酉年免割目録
 十一月吉日

申子迄五ヶ年定免
 一高百九拾七石四斗九升
 三条村

分
 百八拾九石四斗壹合 田方
 取米百四拾石壹斗五升七合 七四分
 八石八升九合 畑
 取米四石式斗八升七合 五三分
 一高式石五斗壹升壹合 同村新田
 取米壹石八升 四三分
 一高式斗七升六合 正徳三已改
 取米六升九合 新畑
 一高式石四斗壹升五合 享保五子同六丑改
 取米式斗八升三合 新畑
 一高式斗七合 享保九辰改
 取米三升九合 新田
 一高式斗三升壹合 寛延二已改
 取米三升三合 山新畑
 取米合百四拾五石九斗四升八合 式五分
 一高式斗七升 享保八卯同九辰改
 一米壹俵式斗七升 山見取米
 内式斗 成木悪敷ニ付寛政五丑カ
 当分用捨

残壹俵七升 上納
 元文三年改 山見取米
 一米三斗 嘉永元年申改 三條村 立会山
 一米貳斗 津知村 見取米
 内
 六升六合八勺 津知村々上納入
 右梅谷 上納分
 残壹斗三升三合 組割
 一米三百拾七勺壹分貳厘 同断
 一米壹石貳斗四合貳勺 代百三拾三勺九厘
 一拾勺 任吉幾大夫御初穂米
 井ニいろく凡手当
 庄屋給
 一米壹石九斗 土砂留銀凡手当
 一銀貳拾勺 尼宿米
 一米四斗 西宮宿米
 同貳升四合 番人屋鋪
 今日造用
 同三斗五升 高嶋池川手年貢米
 同壹斗五升 米勤入用
 一銀四勺八分

一六拾七勺六分五厘 送物入用
 一銀五勺 尼宿年玉
 一銀貳拾勺 庄屋紙筆代
 一五拾五勺 御国役凡手当
 一壹勺五分 中札代阿るきへ
 一米壹石 船ちん
 一米壹斗貳升 深江村喜右衛門江渡ス
 一拾勺 御林字たのき山并ニ外
 三ヶ所請山御糺加銀左
 八郎兵衛へ渡ス

六百四拾四勺壹分六厘 此わり三勺壹分九厘
 此わり三勺壹分九厘 米四石貳斗七升七合
 此わり貳分貳厘四毛八勺
 一米拾石三斗九升壹合五勺 此わり五分四厘八毛七勺 延口米
 御免合八ッ壹分七厘三毛五勺
 畑方御免合
 六ッ壹歩三厘六毛五勺
 同村新田御免合
 五ッ壹歩三毛六五勺

(表紙)

嘉永三戌年 十一月吉日
 戌年 免割目録

正徳三巳改御免合
 三ッ八歩六厘六毛六勺
 享保五子同六丑改新田御免合
 二ッ壹歩四厘六毛五五
 享保九辰改新田御免合
 二ッ七分三厘五勺
 寛延貳巳改山新畑御免合
 三ッ九歩三厘四毛四四
 平均御免合
 四ッ貳歩壹厘八毛七勺

右之通村中立会之上免割勘定仕候、若算用相違御座候ハ、重而算用可致候、尤御冥加年限中村中申合ニ而、右之通御取立可被成下候、年限相済候ハ、先規之通免割勘定仕候、以上

三條村
 惣百姓
 庄屋
 左八郎兵衛殿

一高百九拾七石四斗九升 三條村
 分
 百八拾九石四斗壹合 田方
 取米百四拾石壹斗五升七合 七四分
 八石八升九合 畑方
 取米四石貳斗八升七合 五三分
 一高貳石五斗壹升壹合 同村新田
 取米壹石八升 四三分
 一高貳斗七升六合 正徳三巳改 新畑
 取米六升九合 式五分
 一高壹石四斗六升五合 享保五子同六丑改 新畑
 取米貳斗八升三合 式分
 一高貳斗七合 享保九辰改 新田
 取米三升九合 壹九分

【三條村嘉永三年免割目録】
 神戸市垂水区、左博氏藏
 ○嘉永三年(八五〇)

一高壹斗三升壹合
取米三升三合

寛延三巳改
山新田

式五分

取米合百四拾五石九斗四升八合

一米壹俵式斗七升

享保八卯同九辰改
山見取米

内式斗

成木悪敷ニ付寛政五
丑々当分用捨

残而壹俵七升

上納

一米三斗

元文三年改

山見取米

一米式斗

嘉永元申改

三条村立会山

津知村見取米

内

六升六合六勺

津知村へ上納入

残壹斗三升三合

右梅谷
当村へ上納分

一銀貳百九拾八匁三分九厘

組割

一米壹石式斗四合式勺

同断

代百九拾貳匁六分七厘

一銀拾匁

一米壹石九斗

一銀貳拾匁

一米四斗

一同式斗

一同式升四合

一同三斗五升

一同壹斗五升

一銀四匁八分

一同百拾九匁六分

一同五匁

一五匁

一米壹石

一米壹斗式升

一銀拾匁

銀納直段相分不申候

ニ付凡手当入ル

住吉幾太夫并御初穂
いろく凡手当入ル

庄屋給

土砂留銀凡手当入ル

尼宿米

西宮宿米

番入屋鋪

今日造用

高嶋池川手年貢米

米勤入用

送物入用

尼宿年玉

庄屋紙筆代

御国役銀凡手当入ル

年貢中札竹代入ル

凡手当

舟ちん米入ル

深江村喜右衛門へ渡ス

御林字たのき山外ニ

平均御免合

四ツ式步壹厘八毛七勺

一三拾五匁

へ七百七拾五匁四分六厘

此わり

銀三匁八分四厘宛

米四石式斗七升七合

此わり式分式厘四毛

一米拾三石九升壹合五勺 延口米

此わり五分四厘八毛七勺

御免合八ツ壹步七厘三毛五勺

畑方御免合

六ツ壹分三厘六毛五勺

同村新田御免合

五ツ壹步三毛六毛五勺

正徳三巳改御免合三ツ八步六厘六毛六勺

享保五子同六午改新田御免合

二ツ壹步四厘六毛五五

享保九辰改新田御免合

三ツ九步三厘五毛四四

右之通り村中立会之上免割勘定仕候、若算用相違御座候
ハ、重而算用可致候、尤御冥加年限中村中申合ニ而、
右之通り御取立可被成候、年限相済候ハ、先規之通ニ
免割勘定仕候、以上

三条村

惣百姓

庄屋

左八郎兵衛殿

【万組割賦状】 芦屋市三条町、左武雄氏蔵
○安永五年(七七六)

申年万組割

一銀三百式拾三匁式分五厘

一米壹石式斗三升式合

右之通立会割賦致候処相違無御座候、已上

五毛村庄屋

太左衛門(印)

田島村庄屋

九右衛門(印)

森村庄屋

庄左衛門(印)

安永五年十一月

三条村庄屋
長兵衛殿

【万組割賦状】

芦屋市三条町、左武雄氏藏
○安永六年(七七七)

西年万組割

- 一銀貳百九拾目九分三厘
- 一米壹石壹斗壹升

右之通立会申年割壹割下ヶ無高下致割賦候、以上

(安永六年)

酉十一月

平ノ村庄屋

忠兵衛(印)

田辺村庄屋

九右衛門(印)

三条村庄屋

長兵衛殿

【万組割賦状】

芦屋市三条町、左武雄氏藏
○安永七年(七七八)

戌歲万組割

- 一銀貳百九拾目九分三厘
- 一米壹石貳斗三升貳合

右之通立会致割賦相違無御座候、以上

安永七年十一月

北畑村庄屋

又兵衛(印)

五毛村庄屋
太左衛門(印)

【万組割賦状】

芦屋市三条町、左武雄氏藏
○安永九年(七八〇)

子歲万組割

- 一銀三百拾三匁九厘
- 一米壹石貳斗三升貳合

右之通立会無高下致割賦候処相違無御座候、以上

安永九年

十一月十六日

那家村庄屋

五郎兵衛(印)

北畑村庄屋

又兵衛(印)

三条村庄屋

長兵衛殿

【三条村天保四年取米差引定】

神戸市垂水区、左博氏藏
○天保四年(八三三)

天保四年巳十二月

定

- 一取米合
- 三百三拾石八斗四升壹合 納

分

代卷ノ貳百六拾七匁四分貳厘

此直違

六拾七匁分七厘 過

一壹石貳斗貳升八合 六尺給

百拾六匁三厘三毛かへ上納

代百四拾貳匁四分九厘

村方ニ而者

百廿七匁七分かへ

代百五拾六匁八分貳厘

此直違

拾四匁三分三厘 過

一三斗六升九合 御伝馬宿入用

百拾六匁三分三毛かへ定

代三拾七匁四分貳厘

村方ニ而者

百廿七匁七分

代四拾七匁分貳厘

此直違

五毛村庄屋
太左衛門(印)

【万組割賦状】

芦屋市三条町、左武雄氏藏
○安永九年(七八〇)

子歲万組割

- 一銀三百拾三匁九厘
- 一米壹石貳斗三升貳合

右之通立会無高下致割賦候処相違無御座候、以上

安永九年

十一月十六日

那家村庄屋

五郎兵衛(印)

北畑村庄屋

又兵衛(印)

三条村庄屋

長兵衛殿

【三条村天保四年取米差引定】

神戸市垂水区、左博氏藏
○天保四年(八三三)

天保四年巳十二月

定

- 一取米合
- 三百三拾石八斗四升壹合 納

分

代卷ノ貳百六拾七匁四分貳厘

此直違

六拾七匁分七厘 過

一壹石貳斗貳升八合 六尺給

百拾六匁三厘三毛かへ上納

代百四拾貳匁四分九厘

村方ニ而者

百廿七匁七分かへ

代百五拾六匁八分貳厘

此直違

拾四匁三分三厘 過

一三斗六升九合 御伝馬宿入用

百拾六匁三分三毛かへ定

代三拾七匁四分貳厘

村方ニ而者

百廿七匁七分

代四拾七匁分貳厘

此直違

三条村庄屋
長兵衛殿

【万組割賦状】

芦屋市三条町、左武雄氏藏
○安永六年(七七七)

西年万組割

- 一銀貳百九拾目九分三厘
- 一米壹石壹斗壹升

右之通立会申年割壹割下ヶ無高下致割賦候、以上

(安永六年)

酉十一月

平ノ村庄屋

忠兵衛(印)

田辺村庄屋

九右衛門(印)

三条村庄屋

長兵衛殿

【万組割賦状】

芦屋市三条町、左武雄氏藏
○安永七年(七七八)

戌歲万組割

- 一銀貳百九拾目九分三厘
- 一米壹石貳斗三升貳合

右之通立会致割賦相違無御座候、以上

安永七年十一月

北畑村庄屋

又兵衛(印)

五毛村庄屋
太左衛門(印)

【万組割賦状】

芦屋市三条町、左武雄氏藏
○安永九年(七八〇)

子歲万組割

- 一銀三百拾三匁九厘
- 一米壹石貳斗三升貳合

右之通立会無高下致割賦候処相違無御座候、以上

安永九年

十一月十六日

那家村庄屋

五郎兵衛(印)

北畑村庄屋

又兵衛(印)

三条村庄屋

長兵衛殿

【三条村天保四年取米差引定】

神戸市垂水区、左博氏藏
○天保四年(八三三)

天保四年巳十二月

定

- 一取米合
- 三百三拾石八斗四升壹合 納

分

代卷ノ貳百六拾七匁四分貳厘

此直違

六拾七匁分七厘 過

一壹石貳斗貳升八合 六尺給

百拾六匁三厘三毛かへ上納

代百四拾貳匁四分九厘

村方ニ而者

百廿七匁七分かへ

代百五拾六匁八分貳厘

此直違

拾四匁三分三厘 過

一三斗六升九合 御伝馬宿入用

百拾六匁三分三毛かへ定

代三拾七匁四分貳厘

村方ニ而者

百廿七匁七分

代四拾七匁分貳厘

此直違

三条村庄屋
長兵衛殿

【万組割賦状】

芦屋市三条町、左武雄氏藏
○安永六年(七七七)

西年万組割

- 一銀貳百九拾目九分三厘
- 一米壹石壹斗壹升

右之通立会申年割壹割下ヶ無高下致割賦候、以上

(安永六年)

酉十一月

平ノ村庄屋

忠兵衛(印)

田辺村庄屋

九右衛門(印)

三条村庄屋

長兵衛殿

【万組割賦状】

芦屋市三条町、左武雄氏藏
○安永七年(七七八)

戌歲万組割

- 一銀貳百九拾目九分三厘
- 一米壹石貳斗三升貳合

右之通立会致割賦相違無御座候、以上

安永七年十一月

北畑村庄屋

又兵衛(印)

五毛村庄屋
太左衛門(印)

【万組割賦状】

芦屋市三条町、左武雄氏藏
○安永九年(七八〇)

子歲万組割

- 一銀三百拾三匁九厘
- 一米壹石貳斗三升貳合

右之通立会無高下致割賦候処相違無御座候、以上

安永九年

十一月十六日

那家村庄屋

五郎兵衛(印)

北畑村庄屋

又兵衛(印)

三条村庄屋

長兵衛殿

【三条村天保四年取米差引定】

神戸市垂水区、左博氏藏
○天保四年(八三三)

天保四年巳十二月

定

- 一取米合
- 三百三拾石八斗四升壹合 納

分

代卷ノ貳百六拾七匁四分貳厘

此直違

六拾七匁分七厘 過

一壹石貳斗貳升八合 六尺給

百拾六匁三厘三毛かへ上納

代百四拾貳匁四分九厘

村方ニ而者

百廿七匁七分かへ

代百五拾六匁八分貳厘

此直違

拾四匁三分三厘 過

一三斗六升九合 御伝馬宿入用

百拾六匁三分三毛かへ定

代三拾七匁四分貳厘

村方ニ而者

百廿七匁七分

代四拾七匁分貳厘

此直違

三条村庄屋
長兵衛殿

【万組割賦状】

芦屋市三条町、左武雄氏藏
○安永六年(七七七)

西年万組割

- 一銀貳百九拾目九分三厘
- 一米壹石壹斗壹升

右之通立会申年割壹割下ヶ無高下致割賦候、以上

(安永六年)

酉十一月

平ノ村庄屋

忠兵衛(印)

田辺村庄屋

九右衛門(印)

三条村庄屋

長兵衛殿

【万組割賦状】

芦屋市三条町、左武雄氏藏
○安永七年(七七八)

戌歲万組割

- 一銀貳百九拾目九分三厘
- 一米壹石貳斗三升貳合

右之通立会致割賦相違無御座候、以上

安永七年十一月

北畑村庄屋

又兵衛(印)

五毛村庄屋
太左衛門(印)

【万組割賦状】

芦屋市三条町、左武雄氏藏
○安永九年(七八〇)

子歲万組割

- 一銀三百拾三匁九厘
- 一米壹石貳斗三升貳合

右之通立会無高下致割賦候処相違無御座候、以上

安永九年

十一月十六日

那家村庄屋

五郎兵衛(印)

北畑村庄屋

又兵衛(印)

三条村庄屋

長兵衛殿

【三条村天保四年取米差引定】

神戸市垂水区、左博氏藏
○天保四年(八三三)

天保四年巳十二月

定

- 一取米合
- 三百三拾石八斗四升壹合 納

分

代卷ノ貳百六拾七匁四分貳厘

此直違

六拾七匁分七厘 過

一壹石貳斗貳升八合 六尺給

百拾六匁三厘三毛かへ上納

代百四拾貳匁四分九厘

村方ニ而者

百廿七匁七分かへ

代百五拾六匁八分貳厘

此直違

拾四匁三分三厘 過

一三斗六升九合 御伝馬宿入用

百拾六匁三分三毛かへ定

代三拾七匁四分貳厘

村方ニ而者

百廿七匁七分

代四拾七匁分貳厘

此直違

三条村庄屋
長兵衛殿

【万組割賦状】

九匁七分 過

一百八拾七石四斗七升七合

此米直立

百廿式匁立

六歩米納

村方ニ而者代廿式ノ八百七拾式匁分九厘

百廿七匁七分ニ而取立申候

此間銀

九百四拾五匁五分五厘 過

村方

勘定表納高

三百四拾式石三斗六升

此内

三百三拾石八斗四升壹合 上納分

惣納

拾壹石五斗壹升四合 過米有

差引

十歩一三歩一口米六尺給御伝馬宿
右五口合平均

百七匁式厘壹毛平均

合銀

拾六貫五百九拾壹匁六厘 納銀

六歩米

百八拾七石四斗七升七合

百廿式匁かへ

代式拾式貫八百七拾式匁分九厘

惣納

合三拾九貫四百六拾三匁式分五厘 上納

外ニ村方諸私銀高

拾壹石八百九拾八匁三分九厘

二口

合五拾壹貫三百六拾壹匁六分四厘

分

内江拾歩一三歩一口米六尺給

上納銀直違過

銀四貫百三拾四匁

四分四厘

米七拾三石七斗三升式合 過免米

百廿七匁七分かへ

代銀九貫四百五拾匁式厘

松平遠江守殿領分

摂州菟原郡三条村

出作者共

出作御年貢取御糶出入

願人

庄八郎兵衛
利右衛門
吉右衛門
忠右衛門
多兵衛
伊左衛門
七郎兵衛
四郎兵衛
喜兵衛
弥三右衛門
五兵衛
右惣代
八郎兵衛
利右衛門

添田一郎次様御代官所
同州同郡芦屋村

相手 庄屋
年寄

【天保五年芦屋村出作年貢糶出入控】

神戸市垂水区、左博氏蔵
○天保五年(一八三四)

(表紙)

天保五年

芦屋村出作御年貢御糶出入扣

午ノ四月

乍恐御訴訟

一御上納壹石ニ付百廿七匁七分ニ而、村役人共取立申候、
但し御役所ニ而者、壹石ニ付百拾六匁三毛ニ相見へ申
候
一御上様御定 六歩八米納、但し村役人共惣銀納ニ而、当
巳百式拾七匁七分ニ而取立仕、米ニ而者壹合も相納メ
具不申候、是凡式拾壹ケ年同様取斗可仕候

一御上納米壹石ニ付、余米として米三斗宛取立申候、但し五斗入仕立、此船賃米として、壹石ニ付壹升つゝ直ニ船頭渡シ可申候

一御高壹石ニ付、御免七つ之御定免ニ相聞候処、但シ村方役人共取立て、七つ九分ニ而取立申候

一御高壹石ニ付目役米として米八升余取立申候、但シ年柄ニ寄、米壹斗五升余取立申候儀も御座候

一同壹石ニ付、杭木代として銀壹匁余取立申候、但シ居村之者ハ、右杭木代取立申候儀罷聞申候

一同壹石ニ付、年々入用高相縮メ、銀ニ直シ凡三拾八匁程も過分之掛物之御座候

一御上納米五斗入仕立、村方江持參仕候者も有之候処、右米村方ニ而直立仕、当已壹石ニ付百廿式石ニ付百廿式匁かへ仕、御上銀ニ引取差次申候、但シ是迄年々同様之取斗仕候

一御已年御上納不納之者共、村役人ノ申立候ニ付被召出奉恐入、此度皆済仕候処更ニ二ヶ月分利足、御代官所ノ被仰付候様を以取立候ニ付、是非なく右式ヶ月分相渡し、不納之者共皆済仕候、但シ前書式ヶ月分利足御取立之儀、御上様ノ被仰付候儀者不奉存候様相心得共、

右之儀申聞候ニ付二ヶ月分利足相添皆済仕候
右之通夫々不筋之取斗、村役人共仕候段、此度始而私共心附敷ケ敷奉存候ニ付、乍恐奉願上、何卒村役人被為御召成、不筋之取斗御札被為成下候得共出作者共御慈悲難有奉存候、已上
天保五年二月廿八日
右惣代
八郎兵衛
利右衛門

前書之通無相違相聞候ニ付、乍恐與印仕候、尤庄屋願人ニ付、当村年寄無之ニ付、乍恐私與印致候
伊右衛門

返答書写
相手声屋村ノ

壹ばん

此段百式拾七匁七分つゝ取立候得共、全残銀之儀ハ御上納之御其賃銀寄方銀納掛屋手形打銀全相場違等之雜費ニ相成、猶又其残銀之儀ハ、村方小入用ニ相成申候

貳ばん

一此段惣銀ニ而取立候儀ハ、村方先年ノ仕来ニ而、御定直段ニ不抱地米時之相場を以、銀高見積惣高江割付仕候儀ニ御座候、令勘定之処、六歩ハ米納四歩ハ銀納与相分有之候儀ニ御座候

三ばん

一此段余米与相唱、壹石ニ付三升請取候得者、其年毎ニ納入江相渡候、御蔵納之節札儀欠米之足米手当仕、自然欠差米引残り分ハ納人動料ニ相成、尤船賃之儀者先方奉申上候通船頭江直渡し仕候儀相違無御座候

四ばん

一此段御免七つ余之処、七つ九九歩之取立仕候儀者、当村庄屋年寄給米ニ而、并村方借財之利足銀其外臨時入用等ノ高見積り、則御免ニ相掛り取立候儀故、過免之姿ニ相聞候得共、全余分之取立仕候儀者毛頭無御座候

五ばん

一此段目役米として米三升つゝ米取立候儀者、多分大川出水之御欠所江繕、駅所助郷人足、御用状繼立人足、往還筋川越人足、其外村小遺諸入用ニ御座候得者、年柄ニメ甲乙御座候

六ばん

一此段杭木代として高壹石ニ付銀壹匁余取立候儀者、大川筋并溜池跡給、用水引揚猶又溝作等ニ入用ニ相成申候

七ばん

一此段五斗入儀ニ仕立、村方勝手直段仕候様奉申上候得共、前書ニも奉申上候通御定直段ニ不抱地米時之相場直段を以取立之儀ニ御座候、尤年柄ニメ御定直段ノ米下直之年茂有之、既ニ昨年ハ御定直段ノ壹石ニ付五六匁余も難決仕候得共、仕来之儀ニ御座得共、村方ノ足銀仕請取罷在候儀ニ御座候

八ばん

一此段不審相立候儀、一通尤之儀ニ相聞候得共、限月不納仕候得共次月ノ壹歩半利足相懸ケ取立候儀、前々仕来ニ御座候得共、全村方徳用ニ不仕、臨時入用足銀ニ仕候儀ニ御座候

右声屋村ノ差上答ニ御座候間、問違不審之儀、濟御下紙委敷御札可被成下候

年寄庄左衛門病氣ニ付

代伝 九郎

谷町

御役所

御奉行様江

返答下ヶ紙

相手芦屋村

老ばん

一此儀尤老石ニ付拾壹匁六分六厘七毛相違有之候儀者御公役并村方小入用ニ相成候事

式ばん

一此儀尤四歩方銀納六分方米納ニ御座候得共、当村之儀者畑高有之村方ニ小百姓多候故米納難調、村内ニ而振合仕候ニ付、百姓立会相談之上、時之相場ヲ以直立仕候事、仕来ニ御座候事

三ばん

一此儀尤老石ニ付三升宛取立仕候得共、御料所納方之儀者、何れ之村方にても同様欠米指米ニ相成、但納時之納庄屋へ相渡申候支、但シ老石ニ付米老升宛之儀者御当所并兵庫津迄之運賃船頭江直渡シニ御座候事

右之通相手芦屋村返答下ヶ紙被致候儀ニ御座候

是ノ願人三条村下ヶ紙写

老ばん

一此段老石ニ付拾壹匁六分六厘七毛直違与御座候得共、全相違之儀ニ御座候、御年貢納方拾歩一三分壹平均直段老石ニ付廿匁六分七厘九毛直違有之処、拾壹匁六分六厘七毛ハ御公役并村方小入用ニ相成候趣被申立候得共、帳面ニ而夫、相訳具候様被為仰付、且又残銀之儀者九匁壹厘式毛過銀有之候ニ付、廿壹年已後決算之上早々差戻し具候様、乍恐奉願上候

式ばん

一此段四分銀納六分米納ニ御座候得共、相手方畑高有之、殊ニ小百姓多候故米難調候趣申被立候得共、出作之私共義者、前書四分銀納六分方米納之義ハ承知ニ御座候故、以来御触之通乍恐被為仰付候様奉願上候

三ばん

一此段米老石ニ付余米与唱三升宛被取立候義、先方申之通り欠米差米納方入用勤料共、口、何程つゝ相掛り候哉、夫、正路之相訳具候様奉願上候

四ばん

一此儀尤老石ニ付御免七つ余之処、村方七つ九歩ニ而取立仕候儀者、当時御上納辻三百三拾石八斗四升壹合御座候処、御年貢小入用とも惣銀高見積り右之過免ニ御座候ニ付、三百八拾七石五斗八升七合ニ割合候儀御座候事

五ばん

一此儀当村大川御普請助郷人足用并手筋并溜池其外諸人足賃米ニ御座、尤年柄ニ破損之節者格別、甲乙茂御座候事

六ばん

一此儀尤出作ニ付、年中小使入用ニ相成候事

七ばん

一此儀小入用帳ニ口、書頭候ニ付、帳面勘定給ニ而相分り可申候事

八ばん

一此儀右式点同銀之儀ニ御座候事

九ばん

一此儀御上納御皆濟村方取替置候ニ付、利足請候事
未七月十三日

四ばん

一此段御免七つ之処、村役人共七つ九歩ニ而取立候儀故、老石ニ付米九升つゝ過米、式拾壹ヶ年後に被取立候ニ付、甚迷惑ニ而奉存候間、何卒以来御免定之通取立具候様奉願上候、尤過納米之義、早々差戻し具候様是又奉願上候

五ばん

一此段目役米と唱、夫、御高割ニ取立候儀御座候ハ、此訳居村之者者、人足老石ニ付米老升六合つゝ、取立候ハ、出作者共ハ人足老石人ニ付米式升つゝ、被取立候故、老石ニ付米四合つゝ、余など被取立候故、是迄廿壹ヶ年之間決算之上過米差戻し具候様、乍恐入奉願上候

六ばん

一此段出作ニ付、年中小使入用ニ相唱用候儀と被申立候得共、全偽之儀ニ御座候、前書奉願上候杭木代、御高老石ニ付老匁余被取立候趣ヲ以奉願上候得共、相手芦屋村帳面見請候処高割ニも無之、御高老斗之処も老匁取立老石之処も老匁取立有之候儀ハ何之取立方ニ御座候哉、此儀御糺奉願上候、尤右之外ニ杭木代居村同様ニ被取立候儀有之左候得ハ二重之取立ニ相成候ニ付廿

啓ケ年以後決算之上過銀早、差戻し具候様、乍恐願奉
上候

七ばん

一此段小入用帳面口、書頭候趣被申立候故、廿啓ケ年已
後諸帳面双方立会之上、決算之上仕度旨奉願上候

八ばん

一此段前書ニも奉申上候通り、御上様御定之通り相納申
度段奉願上候

九ばん

一此段御上様江皆済、村方取替候趣被申立之候得共此
儀全偽ニ御座候、則去年二月不納之趣被願上候ニ付、
御代官所江被仰召出、早、私共皆済可仕候処、全村
役人之取替ニ而者無御座候間、右二ヶ月分利足銀差戻
し具候様奉願上候

未七月廿五日

御奉行様

乍恐口上

添田一郎次様御代官所
撰州夷原郡芦屋村

申上候、御料所村、納方ハ、京大坂并江戸御廻米、
右三方江相納候、内左之通り

一御米壹石ニ付

余米三升

分銀壹匁五分

一御米壹石ニ付

余米三升

分銀五分

一米壹石ニ付

分銀壹匁五分

又外銀壹匁三分、五分迄

兵庫湊ニ而入用相掛り申候

一御年貢御取箇御定免七つ余之処、村取立免七つ九歩ニ
割方仕候義、高壹石ニ付米九升宛過米ニ而可相成様申
立候得共、是ハ村方并納米并庄屋年寄給米其外都而諸
払米過米ニ而差出し、其余ハ小入用ニ差入候義、村中
頭百姓共一同立会相談之上、往古仕来候儀ニ付、今

一松平遠江守様御領分同州同郡三条村五兵衛外九人之者
私ニ共相手取御年貢取立御札出入、去年四月十一日谷
町御役所無願上候一件、追々御札被為成下候得共、相
片付不申候、依之此度當御奉行様江御差出しニ相成重
々奉恐入罷在候、然ル処願方ケ条書口、江下ケ紙書付
可仕候旨被為仰付承知仕奉畏り候得共、下ケ紙ニ而者
難相分儀も難斗奉存候ニ付、乍恐口、左奉申上候

一御上納銀御定之石代、御直段与ハ格別相違之儀、今更
故障申立候得共、是迄年、御年貢割方之儀、毎年十二
月免割与唱へ村役人并頭百姓共一同立会御取箇御割紙
通り銀納高江、猶又年中村入用等取調、銀高相嵩都合
銀高何程ニ而も村方取立米高三百八拾七石六斗八升四
合割付、平均直段を以村方取立仕候義、往古仕来ニ
御座候、勿論当村ニ不限、隣村打出村其外御料所村、
者多分右同様之割方ニ御座候、則村方免割帳差上奉入
御上覽候、一御年貢米銀納方之儀ハ、四分方六分方ニ
相限り候訳ニ而も決而無御座候、年々里込之増ニ而
被仰付候義ニ御座候、猶又村方逆も小前之内ニ而其年
々之振合ニ而、増減之指引村役人中仕候

一御年貢壹石ニ付余米三升取立之義、故障申立候此段奉
更村役人計之了簡ニ而違変難仕様奉存候

一夫人足日役米斗立之人足ハ、壹人ニ付米壹升六合つ、
ニ而相動候得共、出作物共ハ、壹人前米式升宛取立候義
故障申立候、尤之趣ニ候得共、此義ハ村方人足入用
ニ而申遣候節、夫々相動具候と右故障無御座候処、種
々別段雇人足ニ付米式升つ、賃米相渡し不申候而者、
人足無御座候ニ付、無抛雇人足賃米ハ、壹人ニ付式升宛
取立候儀ニ御座候

一杭木代之義者先年者入用之節ハ、当村野山又ハ小前持
山之内ニ而為差出し候処、出作杭木代与唱江近年来
年寄方江取立割臨時入用ニ仕候

右奉申上候通、御年貢米銀共割方之儀ハ、村役人共斗
之思召ニ而決而無御座候、累年十二月免割前ノ日、村
方頭百姓共一同立会前揃与し而、年中村小入用諸払与
取調巨細免割帳江書上割方仕、小前之者共江も申聞、
一同得心為仕候義、往古仕来ニ御座候処、近来村道
々及困窮ニ、村借金相嵩必至難渋ニ付、既ニ村役人相
動候者も無御座候ニ付、去年年私共江役儀被仰付、無
抛相動罷在候処、新役共見込、古来無申分相濟行候

儀ヲ引発し、右手難頭之義申立奉願上候義ハ、実ニ迷惑千万難ク敷奉存候ニ付、何卒乍恐新役私共、殊ニ困窮難渋之村方ニ付、格別之御憐愍ヲ以願人共江厚御利解被為仰付下候様、奉願上候、以上

右村年寄
仁兵衛
天保六末年
七月廿三日
百姓代
又左衛門
御奉行様

【天保六年芦屋村出出入願写】神戸市垂水区、左博氏蔵
○天保六年(一八三五)

(表紙)

天保六年
未四月廿四日
芦屋村出出入願之写

三条村庄屋
八郎兵衛

乍恐口上

一松平遠江守殿領分撰州兔原郡三条村八郎兵衛外九人之者共々、当御代官所同州同郡芦屋村役人共相手取、出

乍恐口上

一当御支配所撰州兔原郡芦屋村庄屋年寄相手取、同州同郡三条村八郎兵衛外九人之者共々、出作御年貢米并諸役諸掛不分明御糺出入、被願上候処、御理解之上、当御支配所打出村庄屋善吉并横屋村庄屋与左衛門尼ケ崎領私シ右三人、取嚙被仰付奉畏候、乍不及私心付之義右両村へ色々申進候得共、和融対談不行届、此段双方取嚙人共、当月十五日御断奉申上候処、相手芦屋村諸帳面取調中、右三人取嚙人共立会取調被仰付奉畏り候、尤私忝人ニ而外用向御座候節、甚迷惑奉存候、依之同領高木村庄屋直左衛門差加へ立会申度候ニ付、此段御聞届ケ被為成下候ハ、難有奉存候、以上

天保六未

四月廿五日

御役所様

松平遠江守殿領分

撰州武庫郡段上村

庄屋

五郎右衛門

右之通添田一郎次様御役所江申立候処、聞届被成下候ニ付、尤ニ候得共、尼ケ崎御役場々添状持參候而、罷出候

作御年貢米并諸役諸掛入用勘定不分明ニ付、諸帳面御糺出入、去ル午年四月不及出訴候処、双方御糺之上厚御利害被為仰下、尚又双方從御地頭様、私共江取嚙被為仰付承知奉畏、依之乍不及私存知寄之儀、乍恐左ニ奉申上候

一芦屋村御年貢米并諸役諸掛銀、過不足有之候共是迄之処嚙人江申請度候事

一御年貢米御免七ツニ相定、外ニ諸役諸懸代とし而、高壹石ニ付米壹斗五升宛ニ相定申度候事

一古出作御年貢米御免右同様、外ニ諸役諸掛代とし而、米壹斗宛ニ相定申度候事

右之外余時諸役諸掛り物等、一切相掛申間敷候事

右之通対談為致度旨色々申進候得共、双方共区々心々申張、対談行届不申、此上私シ外ニ心付候儀無御座候、乍恐此段口上書ヲ以御断奉申上候、以上

天保六末年

四月十五日

松平遠江守殿領分

撰州武庫郡段上村

取嚙人庄屋

五郎右衛門

御役所様

一当御代官所撰州兔原郡芦屋村々私共相手取、去ル午御年貢銀滯出入老通、并日役米古出作役米滯出入右式通、当未五月七日被願上候ニ付、私共御召御糺之上返答書差上様被仰付奉畏候、依之篤与取調御答申上度候ニ付、何卒来ル廿三日迄御日延奉願上候、此段御聞届被為成下候ハ、一統難有奉願上候、以上

一御年貢米御免七ツニ相定、外ニ諸役諸懸代とし而、高壹石ニ付米壹斗五升宛ニ相定申度候事

天保六未四月廿五日

段上村庄屋

五郎右衛門

御奉行様

乍恐口上

一当御代官所撰州兔原郡芦屋村々私共相手取、去ル午御年貢銀滯出入老通、并日役米古出作役米滯出入右式通、当未五月七日被願上候ニ付、私共御召御糺之上返答書差上様被仰付奉畏候、依之篤与取調御答申上度候ニ付、何卒来ル廿三日迄御日延奉願上候、此段御聞届被為成下候ハ、一統難有奉願上候、以上

天保六末年

五月十二日

松平遠江守殿領分

撰州兔原郡三条村

八郎兵衛印

四郎兵衛印

太兵衛印

伊左衛門印

忠右衛門印

弥三右衛門印

吉右衛門印

五兵衛印

同村利右衛門病氣ニ付代

兵右衛門印

同村七郎兵衛病氣ニ付代
市右衛門印
同村喜兵衛病氣ニ付代
源 藏印

谷町
御役所

乍恐御訴訟

当御代官所

撰州兔原郡

松平遠江守殿御領分

同州同郡

三条村

入作人共

右者去ル午御年貢銀不納方、乍恐左ニ奉申上候

- 一 銀式百六拾貳匁六厘
- 一 同八拾匁壹分六厘
- 一 同拾九匁三分
- 一 同四匁三分貳厘
- 一 同貳拾匁九分貳厘
- 一 同七匁七分
- 一 同四拾貳匁九分四厘
- 一 同拾九匁八厘
- 一 同四拾九匁五分三厘
- 一 同八拾四匁

同四拾八匁八分貳厘
合銀六百三拾八匁八分三厘
内金三歩壹朱

此銀五拾壹匁八分四厘

差引銀五百八拾六匁九分九厘 全不納

右之通不納仕候ニ付、度、及催促候得共、何角与申延、
一向埒明與不申、甚迷惑千萬敷ケ敷奉存候、向論出入申
ニ付、下ニ而可仕様無御座候ニ付、乍恐不得止事奉願上
何卒書面各前之者共急速被為御召出、早、皆済仕候様、
被為仰付下候ハ、御慈悲難有奉存候、以上

天保六末

五月七日

右村
百姓代
又左衛門
年寄
仁兵衛

乍恐御訴訟

当御代官所

撰州兔原郡

芦屋村

日役米 滯出入
古出作役米 滯出入
松平遠江守殿領分

未五月七日

同断年寄
仁兵衛

谷町
御役所

乍恐返答

松平遠江守殿領分

撰州兔原郡三条村

出作之者共

一 当御代官所御支配撰州兔原郡芦屋村より、私シ共相手取、
去ル午御年貢銀滯出入、并日役米古出作役米滯出入右式
通当未五月七日被願上候ニ付、私共御召出シ御糺之上、
返答書ヲ以可申上旨、被為仰付奉畏、乍左ニ奉申上候
一米式拾石三升四合
右者御年貢五斗貳升五合
仕立ニ而相納有罷候
一 銀五拾五匁四分九厘
右御年貢銀ニ相納有罷候
金三歩式朱渡ス

外ニ

右者御年貢納入用ニ相渡シ
有罷候

一米五斗六升
右之通私共去ル午御年貢銀米、無滯皆済いたし有之処、
此度御年貢銀滯杯与違變我等儘之願仕候段、何共迷惑敷
御慈悲敷有奉存候、尤是迄年々皆銀納ニ而取立候処、昨午年米ニ
洪奉存候、

右者去ル午ノ日役米、并古出作役米不納方、乍恐左ニ奉
申上候

- 一米式斗五升五合
- 一同五升
- 一同壹斗七升
- 一同壹斗
- 五斗七升五合
- 一米六斗貳升
- 一同貳升四合
- 一同壹斗八升
- 一同九合貳勺
- 九斗四升九合貳勺
- 合米壹石五斗貳升四合貳勺

右之通り相渡シ與不申候ニ付、度、催促仕候得共、何角
与申延埒明與不申、甚迷惑仕敷ケ敷奉存候、向論出入申
ニ付、下ニ而仕様ニハ無御座、何卒前書之名前、急速被
為御召出、右役米早、相渡シ與候様、被為仰付下候ハ、
御慈悲敷有奉存候、以上

天保六年
右村年寄
善右衛門

而相納候義ハ、則芦屋村年寄仁兵衛并同村同断善右衛門
右兩人、米ニ而相納候様被申越候ニ付、任其意前書之
通米納仕候義ニ御座候、且又日役米古出作役米滞杯与被
願上候得共、右不相渡置候義ハ、芦屋村諸人用年、多分
相掛ケ、私シ共難渋之余リ難捨置候ニ付、去ル年四月御
年貢并村入用勘定不分明ニ付、式拾壹ケ年已後諸帳面御
札義、当御役所様江奉願上候処、右芦屋村役人共御召被
為成、右諸帳面双方立会取調可致旨、被仰付奉畏候得共、
今ニ取調不行届、依之當時出入中、右小入用不相渡義ニ
御座候、何分諸帳面取揃立会決算用之上、勘定立相分候
得者、早、相渡シ可申処、右御年貢銀滞杯与相違願仕候
段、願人共御召御札之上願相シ候様、被為仰付被下候ハ
、御慈悲歎有奉存候、以上

天保六末年
五月廿四日

松平遠江守殿領分
撰州兔原郡三条村
出作人共
五郎兵衛
四郎兵衛
太兵衛
伊左衛門
忠右衛門
弥三右衛門
吉右衛門
七郎兵衛

谷町
御役所

喜兵衛
右村惣代
八郎兵衛
利右衛門
同村付添頭百姓
五兵衛

乍恐口上

一松平遠江守殿領分撰州兔原郡三条村八郎兵衛并外拾人者
共、同州同郡芦屋村相手取、御年貢并諸人用御札出入
ニ付被願上候、追、御札之上、私共立会、右諸帳面取調
被仰付奉畏候、然ル処當時私共御田地極付之時節ニ御座
ニ付、双方申合一先帰村仕度、依之来ル六月五日迄御日
延御猶予奉願上候、右之段御聞濟被成下候ハ、歎有奉
存候、以上

松平遠江守殿領分
撰州武庫郡段上村
庄屋

五郎右衛門
同領同州同郡高木村
庄屋
直左衛門
当御代官所同州兔原郡
打出村庄屋
善吉

谷町

御役所

御地頭分

乍恐以書付御届奉申上候

一撰州兔原郡三条村八郎兵衛并外拾人之もの共、添田一
郎次様御代官所同州同郡芦屋村庄屋年寄相手取、御年貢
并諸役掛リ銀米御札出入被願上、追、御札之上、右帳面
諸役米取会取調被仰付奉畏候、然ル処于今諸帳面不取揃
候、且ハ私共御田地植付時節ニ御座候間、此段双方相
印ヲ以、来ル六月五日迄御日延御断申上、御聞濟之上
先帰村仕候付、乍恐此段以書付御断奉申上候、以上

天保六末年
五月

右三条村
八郎兵衛
高木村庄屋
直左衛門
段上村庄屋
五郎右衛門
藏屋敷
御奉行所様 御代官
御廻リ

乍恐口上

一当御代官所撰州兔原郡芦屋村、私シ共相手取、去ル午
御年貢銀滞出入并日役米古出作役米滞出入、右式通当五

月七日被願上候ニ付、私シ共御召御札之上返答書可差上
様被仰付奉畏、乍恐別紙返答書差上候得共、取早此節御
田地極付時節相成候ニ付、何卒来ル六月五日迄御日延奉
願上候、右願之通御聞濟被成下候ハ、御慈悲歎有可奉
存候、以上

天保六末年
五月

谷町
御役所

乍恐口上

一当御代官所撰州兔原郡芦屋村、私共相手取、去ル午御年
貢銀滞出入并日役米古出作役米滞出入、右式通当未五月
七日被願上候ニ付、私シ共御召御札之上返答書可差上様
被仰付奉畏、則別紙返答書可差上管之処、未取調不行届、
且又此節私共御田地極付取中ニ御座候ニ付、何卒来ル六
月五日迄御日延御猶予被為成下候様奉願上候、右願之通
り御聞濟被成下候ハ、御慈悲難有可奉存候、以上

松平遠江守殿領分
撰州兔原郡三条村

天保六未年
五月

出作惣代
八郎兵衛

御役所様

乍恐口上

一当御代官所撰州兔原郡芦屋村、去午御年貢銀滯出入并日役米古出作役米滯出入、右式通当未五月七日被願上候ニ付、私共御召之上、返答書可差上旨被仰付奉畏、則先月廿四日返答書奉差上候処、追、御札之上、尚又委細以書付可申上旨被仰付、乍恐左ニ奉申上候

一去年御年貢銀滯出入被願上候得共

此段去年御米式拾石三升四合并銀五拾五匁四分九厘相納、外ニ米五斗六升納入用ニ付相渡、過納ニ可相成哉之処勘定立不仕、剩御年貢銀滯杯与被願上候段、全相違義御座候

一同年日役米并古出作役米滯出入被願上候得共

此段芦屋村ノ諸役諸掛年、多分相掛ケ候ニ付、不分明御札出入、去ル午四月奉願上候処、諸帳面立会取調被為仰付、當時取調中故、勘定立相分不申、依之不相渡義ニ御座候

八郎兵衛
利右衛門病氣ニ付代
喜平治

一当御代官所同州同郡芦屋村、御年貢并諸役諸掛ノ物等、式拾壹ヶ年余諸帳面御札義、去午四月奉願上候処、追、御日延之上当未四月十五日右芦屋村諸帳面取調被仰付、乍恐依之廿壹ヶ年以後右諸帳面取調之段、右村方へ引合候処、四五ヶ年之外無之段申立、帳面見セ具不申候処、打出村庄屋善吉ノ芦屋村右帳面不残取揃有之趣被申上候間、則先月廿四日当御役所様へ奉差上候ニ付、同廿五日ノ取調ニ取掛リ候得共、何分右帳面不残写取得篤仕度段掛合候得共、芦屋村不承知申之、只帳面見請之上得篤候様被申候得共、懸案之私シ共故、右帳面写取不申候而者得篤難仕候義ニ御座候、左候得者下ニ而可仕様も無御座候ニ付、右始末御役所に窺候処、右之趣書付可差上候様被仰付奉畏、則右奉申上候何分前文之始末、何角与算紛日相延、困窮之私シ共難用等責而已、甚迷惑難洪奉存候間、何卒右諸帳面写させ具候様奉願上候、右願之通御聞濟被為成下候得者、御慈悲難有奉存候、以上

天保六未年

右
八郎兵衛

前書之通り御年貢皆済有之処、右御年貢滯杯与被願上候段、全偽リ之願立ニ御座候、尤諸役諸掛リ不相渡義ハ、前文之通諸帳面取調中故、勘定立相分不申、則先月廿四日返答書ヲ以奉申上候処、尚又書付ニ而可申上様被為仰付候ニ付、乍恐此段奉申上候、以上

天保六未年
六月三日

松平遠江守殿領分
撰州兔原郡三条村
出作惣代
八郎兵衛
右村付添頭百姓
伊左衛門

谷町
御役所

右書付六月朔日ニ被仰付候間、二日ニ被出候御引ニ為成申候

六月三日ニ口上書奉差上候処、四日ニ罷出候様被仰付、私シ病氣之趣申立候処、其日昼迄ニ而昼後病氣宜敷被成候ニ付、芦屋村へ掛合候処、芦屋村者留守中ニ御座候ニ付申立候、翌五日ニ御役所へ惣方罷出候処、差控候様被仰付、依之差控居候得共、御呼出も無之、御役所御引ニ相成、依之下宿へ差控居申候事

乍恐口上

松平遠江守殿領分
撰州兔原郡三条村
出作惣代

六月九日
利右衛門病氣ニ付代
喜平治

谷町
御役所様

乍恐返答

松平遠江守殿領分
撰州兔原郡三条村
伊右衛門

一当御代官所同州同郡芦屋村市作、私シ外人相手取、小役滯出入先月七日被願上候ニ付、私シ被召出始末返答書ヲ以可申上旨被仰付、乍恐左ニ返答奉申上候

一芦屋村市作ノ小作滯出入被願上候得共

此段右市作小作仕相滯候儀毛頭無之、依之則其分去ル文政七申年銀卷ノ目取替置候処、返済致具不申、既ニ御訴訟ニも可及之処、芦屋村先庄屋八郎兵衛嚙ヲ以、右預ケ銀之内江田地卷ヶ所此米式石八斗ニ相極メ、尤其年々之直立仕、元銀都合ニ相当リ候迄、右田地引当古作いたし、尤御年貢諸役掛リ等者、右引当中市作ノ相懸ケ申様、右庄屋八郎兵衛嚙ヲ以相對いたし、則去ル卯年米式石八斗代銀式百拾匁九分八厘請取、残銀七百八拾九匁式厘不足ニ相成候ニ付、甚迷惑至極ニ罷

有候処、剩小作滞杯与被願上候段、全相違ニ御座候
一右訴訟面ニ、当御代官所同州同郡深江村請人忠兵衛杯与
被願上候得共

此段右忠兵衛請取相立候儀、決而覚無之、尤相對之儀
者、前書青屋村先庄屋八郎兵衛噺ヲ以、約定仕候儀ニ
御座候

右之通ニ御座候処、此度小作滞出入杯与被願上候段、不
得其意奉存候、依之右当人市作御召御札明被成下候上、
相違願相止候様被仰付下候ハ、御慈悲難有可奉存候、
以上

天保六未年

六月九日

右 伊右衛門
付添頭百姓
喜平治

谷町 御役所

未

六月十日ニ御役所様へ右御年貢不納之趣ヲ窺出候処、差シひか
へいよ被仰付、依之私ニ共申答候儀者青屋村ノ日、御年貢不納
銀相渡シ候様申參り候間、其儀ニ付紛日斗リ相掛リ、難用而已
入候而甚難波ニ奉存候与申答処、左候而も差ひかへ候よし又被
仰付、無抛差ひかへ居申候、以上

難波ニ奉存候間、何卒右諸帳面為写具候様奉願上候、右
願之通御聞濟被為成下候ハ、御慈悲難有奉存候、以上

天保六年

未 六月九日

右村 八郎兵衛
利右衛門病氣ニ付代
喜平治

谷町 御役所様

六月十五日、朝五ツ時御役所江罷出候様、御差紙ニ而被仰付奉
畏リ罷出候処、御前ニおゐて右諸帳面寫為取候ニ付、依之当御
役所ニ而寫為取候間、左ニ承知仕申候、十六日御役所御休日
十七日、右諸帳面、御役所ニ而寫為取候様被仰付候得共、此儀
ハ下方ニ而寫取候様被仰付候様願上候処、右之段不相成候様是
又被仰付、帳面寫シ儀ハ日履いたし写取申度旨申立候得共、此
段不相成候様是又被仰付、依之入作之者へ写取候様被仰付、右
写取候日限御役所ノ追而可沙汰ニ歟ニ被仰付候

右十五日、御前ニ而諸入用去年年中不足之分、相立候様被仰付
候得共、取調中ニ付勘定立相分り不申内者、右入用相渡し候儀
不心得之旨申立置候

六月十八日、諸帳面取調被仰付候段、上村庄屋五郎右衛門并高
木村庄屋直左衛門、右帳面寫シ儀者当御役所ニ而寫為取候段、
三条村ニ被仰付候ニ付、私ニ共罷出候て者不及候儀与御窺出候
処、帳面寫立會之儀者、御代官様へ窺出置候間、差控候様其儘

乍恐口上

松平遠江守殿領分

摂州兎原郡三条村

出作惣代

八郎兵衛

利右衛門病氣ニ付代

喜平治

一当御代官所同州同郡青屋村、御年貢并諸役諸掛リ物等、
式拾壹ケ年余諸帳面御札出入、去年四月奉願上候処、追
々御日延之上、当未四月十五日右青屋村諸帳面取調被仰
付奉畏リ、依之式拾壹ケ年已後右諸帳面取調之段、右村
方へ引合候処、四五ケ年之外無之段申立帳面見セ呉不申
候処、打出村庄屋善吉ノ青屋村右帳面不残取揃有之趣被
申上候間、則先月廿四日当御役所様へ奉差上候ニ付、同
廿五日ノ取調ニ取掛リ候得共、何分右帳面不残写取得篤
仕度段掛合候得共、青屋村不承知申之、只帳面見請之上
得篤仕候様被申候得共、懸案之私シ共故、右帳面写取不
申候而者得篤難仕候儀ニ御座候、左候得者下ニ而可仕様
も無御座候ニ付、右始末御役所へ窺候処、右之趣書付可
差上候様被仰付奉畏、則右奉申上候何分前文始末、何角
与申募紛日相延、困窮之私シ共難用等費而已、甚以迷惑

掃宿仕候

六月十九日、御役所様御召出シニ付、庄屋直左衛門并私ニ共
罷出候処、於御役所ニ申付被成下候ハ、右諸帳面写候ニ付、青
屋村ノ申儀ハ、一先掃宿仕村方小前末、迄相談いたし度旨御座
候ニ付、当月廿六日迄御日延願出候ニ付、聞届置候間、此段承
知可致与申付有之、其儀ニ付私ニ共申上候儀者、青屋村ノ私
方へ者何之沙汰も無之、右青屋村一村ノ日延願出候而も、私
方ハ日延仕候而者甚難波ニ奉存候ニ付、一日成共相急キ申候趣
申立候得共、御役所ニ御聞入無御座候、尤色、与申上候得共、
聞入無之、青屋村ノ日延之申立聞入有之、無抛申恐候得共、先
月植付取中之時節ニ付私ニ方ノ御日延願出候処、青屋村ニ不承
知申立候間、先日延ハ相成不申与被仰付御聞濟無御座、甚植付
之差支相成候得共、御役所様ノ申被付候儀ニ御座候得者、無抛
掃宿仕候

乍恐口上

一摂州兎原郡青屋村、私共相手取、去年御年貢并日役米
古出作役米滞出入、右式通当未五月七日被願上候ニ付、
同月廿四日私共御召御札之上返答書奉差上候処、尚又御
差圖ニ付、六月三日口上書奉差上候通、御年貢不納一切
不仕、右御年貢之儀ハ過納ニ相成儀ニ御座候、尤諸役諸
掛リ之儀ハ、前書同度書付差上候通りニ御座候間、御利
解之程奉恐入候得共、何分當時出入中ニ付、勘定立相分

リ不申、依之相渡候儀一同不承知ニ御座候、尤私共去
 午二月廿八日村諸入用勘定不明ニ付御糺出入、当役所
 様へ奉願上候処、同午六月打出村庄屋善吉段上村庄屋五
 郎右衛門横屋村庄屋与左衛門取噉被仰付、依之当四月初
 日迄右取噉被具候得共、対談不行届ニ付其段御断被申上、
 右噉之義ハ御披免之上芦屋村諸帳面取調中取噉人共同様
 立会候様被仰聞奉畏リ候得共、于今勘定立相分リ不申、
 右躰日数相懸リ甚迷惑至極ニ奉存候ニ付、何卒御憐愍ヲ

以早、諸帳面写取申初リ、乍恐御差配被為成下候ハ、
 御慈悲難有奉存候、以上
 天保六年 未七月初日
 松平遠江守殿領分
 摂州鬼原郡三条村
 出作惣代 八郎兵衛
 同村付添頭百姓 伊右衛門
 谷町 御役所

【芦屋村一件入用九寄控帳】 神戸市垂水区、左博氏藏
 ○天保六年(八三五)

天保六年
 芦屋村一件入用凡寄扣帳
 未六月廿三日

太兵衛 古出作共
 七斗式升七合八勺 六分米納
 四斗八升五合式勺 四分銀納分
 一高七斗七升三合 御年貢附
 取米壹石貳斗壹升三合 諸掛り臨時入用共

五斗五升九合式勺 過
 六升壹合 役米引
 四斗九升八合式勺 過
 又拾五勺壹分五厘
 内分 三勺五分七厘 古出作共
 御公役諸役諸掛り
 臨時入用共 相定メ申候
 忠右衛門
 一高六斗七升五合
 取米四斗七升式合五勺 分

貳斗八升四合 六分米納
 壹斗八升八合五勺 四分銀
 代 外二 貳升四合 御年貢附
 又五勺四分 役米 御公役諸役
 諸掛り臨時入用共
 一高壹石五斗四升式合 利右衛門
 取米壹石七升九合四勺 分
 六斗四升七合六勺 六分米
 四斗三升壹合八勺 四分銀
 代 高八合 畑
 取米三合式勺
 一米壹石壹斗九升壹合
 一米壹石六升式合
 一米石九斗三合八勺
 外二 五升四合式勺 御年貢附
 役米

又銀拾貳勺四分 御公役諸役諸
 掛り臨時入用共
 一高壹石七斗八升三合 五兵衛
 取米壹石貳斗壹合式勺 分
 内米七合五勺知取米入
 七斗式升壹合三勺 米納
 三斗八升壹合 四分銀納
 代 外二 六升式合四勺 御年貢附
 又拾四勺五厘 諸掛り臨時入用
 共
 一五石貳斗三升 八郎兵衛
 九左衛門
 彦右衛門
 忠兵衛
 一高七石壹斗九升五合五勺
 取米五石三升七合 内
 三石貳升式合式勺 六分米

壹石六升式合 利右衛門
 引残リ 米入
 壹石九斗六升式勺 米納
 四分
 米式石壹升四合八勺 銀納
 代 惣米 七石壹斗九升式勺
 外二 五斗五升式合 御年貢附
 役米
 又 六拾四勺七分六厘 御公役諸役
 諸掛り臨時入用共
 一米式石三斗三升四合 七郎兵衛
 一米八斗七升 伊左衛門
 一米壹石貳斗八升七合 喜兵衛
 一高貳斗壹升八合 四郎兵衛
 取米壹斗九合 分
 六升六合 六分米

御年貢附
 御公役諸役
 諸掛り臨時入用共
 御年貢附
 御公役諸役
 諸掛り臨時入用共
 御年貢附
 御公役諸役
 諸掛り臨時入用共
 御年貢附
 御公役諸役
 諸掛り臨時入用共

様被仰付奉畏写差上候、尤訴状写別帶扣御座候事

一 同四月二日、東御番所様へ御訴訟仕候村入用勘定不分明御糺出入御願奉申上候処、御前様御利解始末其方共難渋二付、添田へ願出候処日延シ、夫故此方へ願出候得ハ添田へ出候様申、難渋ニ有之義尤ニ存知候間、此方ハ添田役人呼寄掛合可遣間、明五ツ半時罷出候様被仰聞候ニ付、翌三日罷出候事

一 翌三日、五ツ半頃ニ罷出候処、右添田役人御呼寄被成下候上ニ而、私共へ被仰聞候義ハ、右役人へ掛合聞ケ置候間、則御奉行所ハ添田役所へ罷出候様与其訳申、矢張添田へ罷出可申様被仰聞、依之同日願下ケ仕候義ニ御座候、尤此上ハ添田役人を是迄之様日延シ候義も無之、掛合遣シ候様被仰下難有、依之同日願下ケ仕候義ニ御座候、則其節願書写別帶御座候事

一 午四月四日、添田一郎次様御役所へ村入用勘定不分明御糺出入、芦屋村庄屋年寄相手取願出候、右芦屋村役人翌六日御召被成下私共与対決被仰付、御理解之上尼ケ崎用達小橋屋長兵衛并同御役所御支配下打出村庄屋善吉右兩人へ取噉被仰付、右噉被具候得共対談不行届ニ付、其後右小長義断申之、去午六月ノ尼ケ崎嶺段上村庄屋五郎右

衛門横屋村庄屋与左衛門右三人取噉ニ罷成、対談之義双方へ申進被具候得共行届キ不申、依之当未四月朔日、双方噉人罷出御断奉申上候処、当未四月十五日取噉御免被成下、其上ニ而芦屋村御年貢并村小入用諸役諸懸リ帳面取調双方立会可致様被仰付、尚又右帳面取調中、段上村庄屋五郎右衛門横屋村与左衛門打出村善吉取調中立会致シ遣シ候様被仰付候ニ付、御請申被具候得共、尼ケ崎嶺ニ而段上村五郎右衛門老人ニ付外用向等有之候節差支候趣申立、同領高木村庄屋直左衛門差かへ、右四人差加リ諸帳面取調候処、芦屋村ハ御役所様へ申立候義、近年五ヶ年之帳面之外一切無之由申之候ニ付、私共へ御役所様ハ被仰聞候義ハ、右躰五ヶ年之間ハ帳面無之候間、如何様ニ吟味致し候而も有之者ハ致し方無之由申被聞候得共、私共ハ色、与申立候而、尚又廿老ヶ年之帳面無之候而者取調方無之、夫故右掛合中、当未四月廿五日ハ五月廿六日迄日数三十日余も何角与先方ハ申延し候故、甚迷惑奉存候、依之

打出村噉人善吉へ弥帳面無之与申立、古帳面出し不申義ニ候得者、其段御役所様ハ之仰渡され受申度と及掛合候処、右善吉申答候ハ、芦屋村諸帳面廿老ヶ年之帳

面ハ不残取揃此通ニ持参致し居申候様申之候ニ付、其

一段此方立会人段上村五郎右衛門高木村庄屋直左衛門右兩人ハ右善吉ニ面談致し、只今承り候処、芦屋村年貢勘定帳其外諸懸リ諸帳面其元持参被致候趣承り候、弥相違無之候得拜見仕度由右兩人申之候処、則善吉申条者、帳面之義者如此与申式拾ヶ年已後帳面見申、尚又芦屋村ハ善吉へ送申候目録書迄も見申ニ付、其段御役所へ直様申立候義、左ニ記

一 今日打出村善吉へ掛合候処、帳面不残持参仕候義ニ付、芦屋村役人ハ右帳面ハ五ヶ年ノ無之与申候得共、只今見請申候ニ付、早、持参致し取調ニ取掛リ致具候様、被仰聞被下度様申立候得者、御役所ハ用聞御呼寄被成候而取調置候様被申之、其儘一向埒明不申義ニ御座候

一 五月廿八日ハ芦屋村帳面、立会不残写取篤与系とく仕度旨申候得共、右帳面ハ巻冊も写為取具不申候ニ付、其段御役所様へ写為取具候様、被為仰付度旨段、申立候得共、御聞届ケ無之候得共、何分廿ヶ年之間帳面見覚候義ハ具案之私共故一向出来不申、何卒為写取具候様与度、及掛合候得共、承引無之義ニ御座候

一 六月十六日ニ同御役所様於御前、私共并芦屋村両村御召

ニ付、罷出候御理解之始末左ニ記

一 諸帳面之義ハ不写其儘本帳ニ而取調仕候様被仰聞候

此段私共ハ申立ニハ、数多之帳面見受而已ニ而ハ会得難出来、何卒右帳面写取申度候様申立候処

一 御前様ハ弥帳面写取申度候得者当役所ニ而写可申様被仰聞、尤其節此方ハ役人付可申、論人之外ハ老人も罷出候義不相成、村方之もの斗出写候様与被仰付候義ニ御座候、此段右躰御写為取被成下候ハ、早、方付申度候間、筆者之ものニ而も相願為写申度候間、此段申立候得共御聞届無御座候

御聞届無御座候

一 六月十八日ニ噉人段上五郎右衛門高木村庄屋直左衛門右式人、御役所へ罷出、先達ハ諸帳面取調ニ付私共へ立会致し候様、領主尼ケ崎江御引合被成、則領主差図御座候ニ付罷出候処、此度御役所様ニおゐて帳面為写候様被仰付、尚又御役人御付被成候趣、三条村願人ハ承リニ付、此段私共御伺罷出候、右躰之義ニ御座候ハ、私共立会申義、御披免被成下候哉如何可致、此段伺出候処

一 御役所ハ同置候間否哉之義ハ追而沙汰可致様与被仰聞候御事

一 十九日御役所ハ私共并噉人高木村直左衛門御召ニ付、罷

出被仰聞候義ハ

一此度三条村ハ、芦屋村諸帳面為写取申二付而者、右芦屋村小前末、迄茂篤与申聞度旨申之ニ付、依之同月廿六日迄日延願出候ニ付聞届ケ候間、其段相心得候様被仰聞候義ニ付

此段私共申立候義ハ、当月十六日帳面為写取候様、御前おゐて御代官様直、被仰付候義ニ御座候処、今又芦屋村一村ニ而帳面写させ候義、村方小前末、迄申聞度旨申之杯与申立、私共ハ相印も無之日延願出我等儘ニ帰村仕候義、不得其意御義ニ御座候、何分右躰ニ日送り相成候義、甚以難洪ニ御座候間、早、帳面為写被下候様被成下度候様奉願上候得者

右御役所被仰候義、此方聞届ケ為帰申候間、我等帰リ申義不得心ニ候ハ、勝手次第ニ可仕候様被仰聞候義ニ付此段私共申立候義ハ、既ニ当五月御田地植附時節ニ付、植附中十日日延仕度旨当御役所へ願出候処、相手芦屋村へ掛合双方連印ヲ以日延願出候様被仰聞、其段先方へ掛合候得共不承知申之ニ付、又、其趣ヲ以御日延被成下度候様、願出候得共一切御聞入無之ニ付、無愧其儘ニ相続旅宿ニ罷居申候、此度ハ先方一村之日

延願出候処御聞届ケ之上帰村仕候段甚迷惑奉存候、此段申答候得共、頓着不被成下候義ニ御座候

一六月廿七日、御切日ニ付罷出候処、御役所引ニ御座候事

一同月廿八日、罷出候処、同断之事

一同月廿九日、双方御召ニ付御役所へ罷出候処

先達而ハ三条村申立之通、帳面当役所ニ而写取候様可致、尤芦屋村ハ願出候御年貢不納并小入用可相渡上ニ而右帳面為写申候間、早、相立候様被仰聞候、私共ハ申答候義ハ、去午御年貢皆済有之、則其段先達而返答書差上、則受取書等差上候通御年貢一切不納不仕候、過納ニも相成候様相納申候、尤諸掛リ之義、右兩度書付ヲ以奉申上候通、当時出入中ニ而于今勘定相分リ不申候ニ付、相渡し候義一同不得心ニ御座候与申答候処右諸入用相渡し置候而も、自然勘定立之上過納ニ相成候ハ、差戻し可申様被申付候ハ、右諸掛リ相渡し置候而、帳面写為取可申様被仰聞候

此段御利解之程奉恐入候得共、何分相分り不申内相渡し候義不承知之段申立候処
弥不承知ニ有之ハ、其趣書付差上候様被仰聞候ニ付其義ハ先達而返答書差上置候処、尚又御札之上口上書

御奉行所様へ願出申度与奉存候義ニ御座候事

天保六未年

七月三日

三条村庄屋

八郎兵衛

外給人者共

【天保六年芦屋村出作古出作并本高斗高控帳】

神戸市垂水区、左博氏蔵
○天保六年(一八三五)

(表紙)

天保六未八月吉日

芦屋村出作古出作并本高斗高扣帳

三条村庄屋
八郎兵衛

撰州兔原郡

一高五百三拾式石八斗八升八合

芦屋村

内

三拾六石壹斗壹合

二重高引

六拾五石式斗壹升五合

斗代違地床并戸無地

壹斗七升七合

砂入

残高四百三拾壹石三斗三升五合

毛附

此取米貳百八拾式石三斗六升五合 免六六八五取

此取

差上候様被仰聞、兩度書付差上置候義ニ御座候段、申上候処

縦幾度ニ而も書付差上候様押而被仰付候ニ付、伺其上又ニ三度目ニも及候得共、書付奉差上候事

噯人共立立会申義如何被成下候哉与相伺申候処、其方共出候処其方立立会人之義ハ、此度一先帰村可致様被仰聞

此段直左衛門相伺候義委細之義ハ地頭所成行申答、尚又御返翰被成下度哉与申上候処、先此度ハ返翰ニハ不及、尚又用向有之節ハ沙汰可致候間、罷出候様与被聞候義ニ御座候、則六月廿九日之事ニ御座候

一右六月廿九日ハ帳面為写被成下候哉与日、相待候得共、其儘ニ而何之沙汰も無之付、七月二日右帳面写取申度候段、如何被成下候哉相伺罷出候処

此間内差支之義有之候ニ付、差扣居候様被仰聞追而沙汰可致旨被仰聞候

前書之通別紙ニ願書返答書ハ、相認奉入御覽候義ニ御座候、何分ニも右躰之義ニ而数日相懸リ、甚迷惑難洪仕候ニ付、一先願下ケ仕、右御役所様ニ而頼分之御取斗方之趣意相認メ、恐多候得共御月番

一高三百五十五石式斗八升九合 田方
 此取米貳百四拾八石七斗壹合 免七ツ
 一高五十五石五斗 畑方
 此取米貳拾六石三斗壹升八合 免五ツ貳步五厘八毛
 一高貳拾五石八合 屋敷
 此拾三石貳斗五升四合 免五ツ三歩取
 一高五合 亥本畑成
 此三合 起返免六ツ取
 一高九斗八升三合 本畑成
 免四歩九厘八毛余
 同所新田
 一高百六石五斗三升貳合 同所新田
 内
 式石六斗八升三合 斗代違堤敷地床
 五石三斗壹升貳合 砂入山岸川欠
 残高九十八石五斗三升七合 毛附
 此三拾九石貳斗三升五合
 此取
 一高三拾壹石三斗六升七合 田方
 此取米拾三石五斗壹升三合 免四ツ三歩八毛
 一高五拾石三斗貳升壹合 畑方
 此貳拾壹石貳斗六升九合 免四ツ貳步貳厘八毛
 一高貳石六斗貳升六合 屋敷
 此壹石五斗四升六合 免四ツ貳步貳厘
 一高四斗貳升九合 林畑成
 此四升三合 免壹ツ貳毛余
 一高八石九斗九升 林畑成
 此八斗九升九合 免壹ツ
 一高壹斗九升六合 去ル卯起返
 此取米三升八合 免壹ツ九歩三厘九毛
 一高五斗三升八合 丑起返

此米五升四合 免壹ツ四毛
 一高八石四斗五升貳合 同新田
 此取
 一高六石壹斗九升六合 畑方
 取米九斗三升 免壹ツ五歩一毛
 一高貳石貳斗五升六合 林畑
 取米貳斗貳升六合 免壹ツ貳毛
 一高壹斗貳升八合 卯ニ高入
 取米六升四合 同所新田
 免四ツ六歩三厘八毛
 一高四斗貳合 同所新田
 此取米壹斗八升六合 免四ツ六歩貳厘七毛
 一堤八畝拾六歩 見取場
 此貳斗六升 見取場
 一山九反七畝五歩 見取場
 此九斗七升
 打出村立会反別拾八町歩之内
 芦屋村
 芝山九町歩 見取場
 此米壹斗八升
 取米合三百三拾石三斗七升六合
 内
 八石五斗八升大豆納 拾歩一
 貳拾四石四斗六升 大豆銀納
 百拾石壹斗貳升六合 三歩一銀納
 百八拾七石貳斗壹升 米納
 外
 一銀貳拾八匁 水車運上
 一拾九匁九分 銀治壹人役銀
 一銀三拾六匁 年々増減
 一銀拾四匁 水車大工壹人役銀
 右同断 小船運上
 右同断

一銀三拾匁壹分
 一銀貳拾匁九分
 一銀五拾三匁九分
 一銀拾匁壹分
 一銀六匁
 掛り高六百拾式石三斗壹升壹合
 外
 一三拾六石壹斗壹合
 二重高免除

素麵屋七人組銀
 卯未五ヶ年
 水車運上
 巳酉迄五ヶ年
 水車運上
 卯未迄五ヶ年
 水車運上
 辰申迄五ヶ年
 石楳買銀
 右之通庄屋年寄惣百姓
 此反別五拾町五反壹畝九步
 拾五ヶ所
 松林
 御蔵前入用
 六尺給米
 掛り方米壹石貳斗貳升五合
 右同斷
 一銀九拾匁八分五厘
 御儀馬宿入用
 一米三斗六升七合

【古出作出作一件諸祝儀控帳】
 神戸市垂水区、左博氏藏
 ○天保六年(一八三五)

(表紙)
 天保六年
 諸祝義扣帳
 午十月吉日
 三條村庄屋
 八郎兵衛
 出作惣代
 利右衛門

一金貳步
 小橋屋
 長兵衛
 同手代
 庄次

外二 金貳步 心附
 はがま壹ツ附格別之御世話ニ相成
 同手代
 新助
 薬屋手代
 久兵衛
 添田百々様へ
 御礼
 添田
 御榮中江
 小遣
 小橋屋
 長兵衛
 一金貳步
 一金壹朱
 一金貳百足
 一金壹步貳朱
 一金百足

御内室様へ
 同
 御子息様へ
 御蔵屋舖
 大八様へ
 讃又
 茶料
 同
 清治郎
 同
 内儀
 御蔵屋舖
 大沢大八様
 御内室様
 天満
 御礼
 御蔵屋舖
 御主留居様
 讃又
 俣親元
 御屋舖
 小入用預ケ
 讃又
 親祝義

一壹朱
 一壹朱
 一壹百文
 又壹匁
 一十四ヶ録壹斤
 一金壹步
 一金百五拾足
 取受人
 高木村
 庄屋直左衛門
 御礼
 一壹朱
 一壹朱
 一壹百文
 又壹匁
 一十四ヶ録壹斤
 一金壹步
 一金百五拾足
 取受人
 高木村
 庄屋直左衛門
 御礼
 一壹朱
 一壹朱
 一壹百文
 又壹匁
 一十四ヶ録壹斤
 一金壹步
 一金百五拾足
 取受人
 高木村
 庄屋直左衛門
 御礼

外二
 白土田壹反
 添田御役所
 百々珍七様
 進物有之
 水引
 杉原紙
 一五拾文
 金七兩三歩壹朱
 代四百九拾匁六歩貳厘
 銀六拾七匁八分
 六拾五匁 立門壹反代
 廿七匁
 白賀加
 壹反
 六百四拾七匁四分貳厘

【天保六年三条村年貢入作小前取立控帳】

神戸市垂水区、左博氏蔵
○天保六年(一八三五)

(表紙)

天保六年
未御年貢入作三条村小前取立控帳
十二月
年寄 仁兵衛

兎原郡 芦屋村

天保六年御年貢通

八郎兵衛

一七石七斗六升貳合

此取米五石四斗七升貳合貳勺

内訳

五斗四升七合貳勺

十分一

代三拾七匁六分七厘

壹石八斗貳升四合

三分一

代百七十九匁九分貳厘

三石壹斗壹合

六分方 米納

一六拾九匁八分六厘

御公役諸役諸掛り臨時入用共

一貳斗七升貳合

御年貢附 役米

内

壹斗六升六合

口米

代十六匁貳分

又 壹斗六合

又 三石八斗八升四合

市作へ入

壹斗 貳合

米 八石四斗七升七合

忠兵衛へ入

内へ

又 壹石六升貳合

利右衛門へ入

又 三升九合

又 三斗七升六合

池床引

又 三十四匁九分七厘

惣 三百三拾九匁

不足

六分貳厘

皆済

申四月

年寄

仁兵衛

天保六年

御年貢通

一 壹石五斗四升貳合

取米壹石八升七合

一八合

取米五合

取米合壹石九升貳合

内訳

壹斗九合

十分一

代七匁五分

三斗六升四合

三分一

代三拾五匁九分壹厘

六斗壹升九合

一拾貳匁四分

一五升四合

内 三升三合

代三匁四分貳厘

貳升壹合

米 壹石六升貳合

八郎兵衛へ入

又 壹石壹斗九升貳合

忠兵衛へ入

米 貳石八斗九升四合

内へ 三石

五斗入 六俵入

壹斗六合

代九匁八分五厘

銀 五拾九匁貳分三厘

内九匁八分五厘 右米過代引

四十九匁三分八厘 不足

申四月 皆済

年寄

仁兵衛

天保六年御年貢通

一 壹石七斗六升八合

取米壹石貳斗四升七合

一 壹升五合

取米合壹石貳斗五升六合

内訳

壹斗貳升五合

取米 八合

取米 八合

取米合壹石貳斗五升六合

八郎兵衛へ入

十分一

代八匁六分
 四分壹升九合
 代四十一匁三分三厘
 七斗壹升貳合
 一拾四匁貳分七厘
 一六升貳合四勺
 内 三升八合
 代三匁九分四厘
 貳升四合四勺
 米 七斗四升壹合四勺
 内 七斗
 四斗壹合四勺
 代三匁七分六厘
 銀 七拾壹匁九分
 皆濟
 申四月 年寄 仁兵衛
 三分一
 米納
 御公役諸掛り
 臨時入用共
 御年貢附
 役米
 口米
 入
 天保六未
 御年貢通
 一壹石貳斗八升七合
 取米
 一四斗四升六合
 取米合壹石貳斗貳升貳合
 内 貳
 壹斗貳升貳合
 代八匁四分
 四斗七合
 代四十匁壹分五厘
 六斗九升三合
 一十一匁五分八厘
 又三匁五分七厘
 一六升壹合
 内 三升七合
 代三匁八分
 貳升四合
 米 七斗壹升七合
 御公役諸掛り
 掛り臨時入用
 御年貢附
 役米
 御口米
 三分一
 米納
 古出作田
 太兵衛
 田

内 壹石貳斗八升七合
 五斗七升
 代五十三匁壹厘
 銀 六拾七匁五分三厘
 内
 拾四匁五分貳厘 不足
 皆濟
 申四月 年寄 仁兵衛
 喜兵衛 入
 過米
 右過米代引
 天保六未
 御年貢通
 一十九斗三升七合
 取米六斗六升六勺
 一六斗四升五合
 取米三斗四升七合
 取米合壹石六升六勺
 内 貳
 壹斗六合
 代七匁三分
 十分一
 善左衛門
 田
 畑
 三斗五升三合五勺
 代三拾四匁八分七厘
 六斗壹合六勺
 一十四匁貳分四厘
 一五升六合
 内
 三升貳合
 代三匁三分貳厘
 貳升四合
 米 六斗貳升五合
 内 五升三合
 六斗五升
 七升八合
 代七匁貳分五厘
 銀 五拾九匁七分三厘
 内
 五斗貳分八厘
 皆濟
 御公役諸掛り
 諸役臨時入用
 御年貢附
 役米
 御口米
 三分一
 米納
 畑免過引
 米納出
 過米
 右米過代引
 不足

未年分
申四月
年寄
仁兵衛

天保六未
御年貢通

一六斗七升五合
此取米四斗七升六合

内訳
四升七合六勺

代三勺式分八厘

壹斗五升八合六勺

一五勺四分

一式升四合

内 壹升四合

代壹勺四分五厘

米 壹斗七升九合七勺

内 三斗
米納

代壹勺八分九厘

銀 廿五勺七分八厘

内 廿三勺八分九厘

申四月
皆済

年寄
仁兵衛

天保六未
御年貢通

一壹斗壹升四合
取米六升壹合

内 七合

代四分八厘

式升式合六勺

代式勺式分三厘

四升壹合四勺

壹升七合八勺

代壹勺式分三厘

五升九合三勺

代五勺八分五厘

壹斗 九勺

一四勺七分七厘

内 五合四勺

代六分六厘

米 八升六合

代八勺

惣 十八勺六分壹厘

申四月
皆済

年寄
仁兵衛

忠右衛門

古出作田

十分一

三分一

米納

御公役諸掛り
掛り臨時入用

御年貢附
役米

御口米

御公役諸掛り
掛り臨時入用

御年貢附
役米

御口米

米納

米過代引

不足受取

彌三右衛門

十分一

三分一

米納

御公役諸掛り
掛り臨時入用

御年貢附
役米

御口米

御公役諸掛り
掛り臨時入用

御年貢附
役米

御口米

御公役諸掛り
掛り臨時入用

御年貢附
役米

御口米

御公役諸掛り
掛り臨時入用

御年貢附
役米

御口米

御公役諸掛り
掛り臨時入用

御年貢附
役米

御口米

御公役諸掛り
掛り臨時入用

御年貢附
役米

御口米

御公役諸掛り
掛り臨時入用

御年貢附
役米

御口米

御公役諸掛り
掛り臨時入用

御年貢附
役米

御口米

惣々五百七拾七匁
九分貳厘

内へ

三百拾匁五分

又 百廿三匁貳分

又 四百五十三匁七分

又 百廿四匁貳分貳厘不足

内へ

百廿四匁七分八厘

又 五分六厘過辰シ

皆済

金貳兩壹朱入

天保六未御年貢通

一八斗七升

皆済

申四月

年寄

仁兵衛

伊左衛門

天保六未御年貢通

一壹石貳斗八升七匁

喜兵衛

皆済

申四月

年寄

仁兵衛

天保六未御年貢通

一貳石三斗三升四合

皆済

申四月

年寄

仁兵衛

七郎兵衛

【天保八年芦屋村出作出入一件諸入用勘定帳】

神戸市垂水区、左博氏蔵
○天保八年(八三七)

(表紙)

天保八年

芦屋村出作出入一件諸入用勘定

酉三月吉日

覚

午とし分

一米八斗七升

伊左衛門

代百拾壹匁壹分壹厘

内金壹兩壹匁

代百拾匁六分

又貳匁六分七厘

又三匁壹分八厘

未とし

一米七升 不足

代六匁九分三厘

内

金貳匁

代三拾壹匁

又 廿匁八分九厘

外二

六拾六匁壹分四厘

惣とり分

又 廿匁六分

又 拾七匁貳分六厘

三口

合百五匁

内

廿匁八分九厘

午未過銀
出ス

又 廿三匁貳分五厘 壹朱六ツ入

又 拾七匁

入 六拾壹匁壹分四厘

差引

四拾三匁八分六厘不足

内

金壹兩 大坂ニ而入候

代六十匁

又 拾八匁壹分四厘過

覚

一壹石貳斗四升七合

午とし

代百六拾四匁壹分五厘

又 三匁九分四厘二ヶ月利足

又 百六拾貳匁貳分九厘

内

金貳兩貳匁

代百五拾八匁

又 拾匁貳分九厘不足

未とし

一米八升七合

不足

代八匁六分壹厘

二ヶ年不足

八匁八分九分

不足

九拾貳匁六分九厘出入一件入用

又廿壹匁六分

惣とり

十七匁貳分六厘

掛り銀

百五拾匁四分五厘

切金掛り

内

七匁

人足ちん

廿三匁貳分五厘壹歩貳朱入

又廿拾匁

入

百五拾匁貳分五厘 出銀分

差引

百匁貳分不足

覚

午とし

一壹石四斗六升三合

太兵衛

内壹石貳斗八升七合

喜兵衛入

壹斗七升六合

代廿貳匁四分八厘

又六分四厘 二ヶ月利足

廿三匁壹分貳厘

内 金壹歩貳朱

代廿三匁七分

五分八厘 過

未とし

一拾四匁五分貳厘 不足

二ヶ年差引

拾三匁九分四厘 不足

内

金壹歩

入

代拾五匁八分

差引壹匁八分六厘過

百貳拾四匁八分壹厘 出入一件入用

又貳拾壹匁六分

惣とり入用

八匁六分三厘

切金入用

三口

百五拾五匁四厘

内へ

壹匁八分六厘 過出分

七拾四匁五分三厘入

三口

八拾匁三分七厘

入

七拾四匁六分七厘不足

七拾四匁六分七厘不足

覚

忠右衛門

午とし 一拾五匁三分六厘 不納分

三分七厘二ヶ月利足

拾五匁七分三厘 不足

内 金壹歩

入

二ヶ年 差引代三十匁匁

八匁六分貳厘 不足

又廿壹匁六分 惣とり入用

四拾八匁六分壹厘 出入一件入用

八匁六分三厘 切金入用

四口

合八拾七匁四分六厘

内へ 三拾壹匁五分六厘入

拾五匁五分 壹歩入

人足ちん

三匁五分

入 五拾匁五分六厘

三拾六匁四分四厘不足

覚 治右衛門

午十二月勘定分

一五拾壹匁四分 不納分

又壹匁貳分四厘 二ヶ月利足

五拾貳匁六分四厘

内

金壹歩

入

代拾五匁八分

三拾六匁八分四厘不足

未とし分

四十九匁三分八厘 不足

内

金三歩 入
 代四十六匁五分
 〆式匁八分八厘 不足
 式百七拾三匁九分七厘 出入一件入用
 又式拾壹匁六分 惣とり入用
 又拾七匁式分六厘 切金入用
 四口
 合三百拾五匁六分九厘
 内
 四百三拾四匁金七兩 入
 又七拾七匁五分 人足ちん
 廿匁五分式厘 利右衛門
 取かへ出ス
 入銀
 五百三拾式匁式厘
 差引
 式百拾六匁三分三厘過
 未とし
 一拾八匁六分壹厘 不納
 覚 四郎兵衛
 内
 金壹歩壹朱
 代拾九匁三分七厘
 〆七分六厘過
 式拾壹匁四分六厘 出入一件入用
 廿壹匁六分 惣とり入用
 拾七匁式分六厘 切金入用
 三口
 〆六拾匁三分式厘 出入一件入用
 内
 三十壹匁 金式歩入
 又拾九匁三分七厘 金壹歩壹朱入
 七分六厘 年貢過出ス
 入 〆五拾壹匁壹分三厘
 差引九匁壹分九厘不足
 内
 八匁 人足ちん出ス
 〆壹匁壹分九厘不足
 未とし
 覚 弥惣右衛門

一七匁五分式厘 不納分
 内
 金壹歩壹朱
 代廿三匁五分五厘
 〆拾五匁七分三厘過
 八匁式分壹厘 出入一件入用
 廿壹匁六分 惣とり入用
 合廿九匁八分壹厘
 内
 七匁七分五厘 式朱壹ッ入
 拾式匁 人足ちん入
 拾五匁七分三厘 年貢過出ス
 〆五匁六分七厘過
 未とし分
 一七拾壹匁九分 不納分
 内
 金壹匁 入
 代六拾式匁
 覚 五兵衛
 内
 金壹兩
 代六十式匁 入
 廿壹匁 人足ちん
 入 〆百七拾八匁式分八厘
 差引
 壹匁壹分壹厘過
 未とし
 一五拾式匁四分八厘 不納
 内
 金壹兩 入
 覚 吉右衛門

代六拾貳匁

九匁五分貳厘 過

廿匁匁六分 惣とり入用

拾七匁貳分六厘 切金入用

百拾三匁九分四厘

三口 出入一件入用

合 百五拾貳匁八分

六十三匁五分貳厘金壹兩入

九匁五分 人足ちん

金貳歩 入

代三十匁匁

入 百四匁貳厘

又九匁五分貳厘年貢 過出候

三拾九匁貳分六厘 不足

寛 七郎兵衛

一廿匁匁六分 惣とり入用

一拾七匁貳分六厘 切金入用

一百六拾九匁匁分 出入一件入用

貳百六匁九分六厘

内

金壹兩貳歩

代九拾三匁

六匁 人足ちん

六匁 廻状人足ちん入候

入 百五匁

百匁匁九分六厘不足

寛 八郎兵衛

一壹匁拾五匁厘 出入一件入用

一三拾四匁五分貳厘 切金入用

一廿匁匁六分 惣とり入用

三口

合 七拾匁匁分三厘

貳百匁匁五分人足ちん

八百六拾九匁匁分六厘不足

【菅屋村出作込米書上】 神戸市垂水区、左傳氏藏
◎安政四年(一八五七)

一当御支配摂州夷原郡菅屋村御田地、私共古来所持出作

(前欠)

罷在候、当年御上納米之内、五斗儀壹俵ニ付三合増之込米不仕候付、其段菅屋村役人共私相手取被願上候趣、御召出之上被仰聞候段奉畏候、左ニ御答奉申上候
此段御上納米、壹俵ニ付五斗入之御定ニ付、先規右俵入欠差米共五斗三升宛計納米候趣、去ル文化年中比御上納米并御公役諸役諸懸リ臨時入用共多分ニ相懸ケ候ニ付、天保五年二月菅屋村庄屋年寄相手取、添田市郎次様御代当御役所江奉願上候趣、双方御召出御糺之上夫、御地頭様取受人御差加へ被為成下、精取嚙致被與候得共、和融対談難行届候ニ付、西奉行所へ右出入御差出しニ相成、双方御召糺之上格別之思召ヲ以、双方御用達兩人江取嚙被為仰付候ニ付、右御用達兩人并菅屋村役人私共立会、諸帳面取調之上取嚙ヲ以、御年貢米御公役諸役米諸懸リ銀并臨時入用共取立メ在之、懸リ御年貢米納方并御年貢附米御公役銀諸役米、并村諸懸リ臨時入用共、銀米増減之年柄ニ不抱平均仕卷ケ年ニ御高壹石ニ付米三升五合并銀九匁宛ニ相極メ、右之外聊も後、年ニ至迄、一切相懸申間敷連印之約定一札為取替置、其後昨辰年迄、右御年貢米五斗入納米、先規之通五斗三升計米相済在之候趣、当年

者五斗三升三合可計旨、村役人申聞候得共、此儀者兼而約定一札ニ在之通、臨時入用ニ付年々相渡在之御年貢附米ニ而納與候様申答候而も、外ニ別不慮之儀申懸ケ候儀等一切無御座候、右ヲ御収納米之差支ニ相成候趣被願上候段、何共其意不得奉存候、乍憚御地頭様御取立増免被仰付候儀ニ候ハ、違背仕候儀者一切無御座候得共、自然増免被仰付候儀ならハ、其旨前可申懸與候趣、其儀無之、左候節者全臨時入用与奉存候ニ付相断申候、右者天保度西御奉行所江も対談済約定書為取替之写も差上置候ニ付、右様三合ニ而も新規増入用差出候節者、右為取替置反古同様ニ相成候而も、御上様江奉對奉恐入、私共ニも敷ケ敷、御百姓相統之為方ニも抱候儀ニ付、右之始末被為聞召訊、右御年貢附米ヲ以俵入上納仕與候様、村役人共何卒格別御憐愍ヲ以御利解被為仰付被下置候ハ、難有仕合奉存候、已上

安政四巳年

十一月晦日

松平遠江守殿領分

摂州夷原郡三条村

出作人 八郎兵衛印

付添頭百姓 五兵衛印

谷町 御役所

一下田 拾壹間 貳畝貳拾三歩 式斗四升九合
一下田 貳間 拾歩 三升

合七畝拾五歩 六斗七升五合 田方

田畑合四反六畝八歩 内

四反五畝拾七歩 田方 分米四石四斗三升壹合
貳拾壹歩 畑方 分米貳升三合

高合四石四斗五升四合

田方 御檢地帳 長數七本
畑方 新田 新畑 反合拾六町五畝四歩
分米合貳百貳石三升

十五 上田五町九反六畝貳拾五歩
分米八拾九石五斗貳升五合

十三 中田四町五反貳畝拾五歩
分米五拾八石八斗貳升五歩

十壹 下田三町貳畝七歩
分米三拾三石貳斗四升六合

八 下々田壹反八畝貳拾九歩
分米壹石五斗壹升七合

十三 屋敷四反八畝拾壹歩
分米六石貳斗八升八合

御檢地帳

野寄組 三条村

【三条村檢地帳写】 芦屋市三条町、左武雄氏藏
○寛文三年(元文三年)一七三〇
(表紙)

十三 上畑貳反壹畝貳拾八歩
分米貳石八斗五升壹合

十壹 中畑五畝拾九歩
分米六斗壹升九歩

八 下畑三反五畝壹歩
分米貳石八斗三合

六 下々畑三反八歩
分米壹石八斗壹升六合

分米合百九拾七石四斗九升
内三石六斗六升 打出シ

寛文三卯年五月三日 村田伊兵衛
近木平左衛門印
大内孫兵衛印
本山六郎兵衛
紙數六拾五枚

寛文四年七月日 左右田甚左衛門印
河原彦右衛門印
本山六郎兵衛

印南惣兵衛印
鈴木新右衛門印
大内孫兵衛印

山新開檢地帳 壹本
反合壹反九畝九歩
六 分米壹石壹斗五升八合

宝永申年九月十七日 杉山伊兵衛印
梅垣治右衛門印
中西半大夫印
菅沼市郎兵衛印

正徳三癸巳年八月改新開檢地帳 壹本
下々畑反合六畝貳拾七歩
四 分米貳斗七升六合

石盛四ツ
八木庄兵衛印
片岡権左衛門印

関弥市右衛門印
森 儀兵衛印

元禄五申年九月同日新田検地帳 壹本

反合式反九畝式拾三步

内

下々田式畝式拾步

八 分米式斗壹升三合

下畑式畝式拾四步

六 分米壹斗六升八合

下々畑式反四畝九步

四 分米九斗七升式合

高合壹石三斗五升三合

加藤八右衛門印

北村孫右衛門印

天野八郎兵衛印

森 太左衛門印

山新畑検地帳 壹本

反合三畝八步

四 分米壹斗三升壹合

石盛四

右者六尺三寸竿を以令検地壹反三百歩ニ相究者也

寛延二巳年九月改

柴田小文治印

家木長右衛門印

塚本小右衛門印

内山治郎左衛門印

綾部郷右衛門印

山新畑検地帳 壹本

反合式反四畝九步

四 分米九斗七升式合

石盛四ツ

右者六尺三寸竿を以令検地壹反三百歩ニ相究者也

享保五年子九月改

川村八郎右衛門印

石川佐大夫印

浦野六郎右衛門印

石田次左衛門印

山新畑検地帳 壹本

反合八畝壹步

訳

屋敷式畝壹步

四 分米式斗三合

石盛拾

下々畑六畝步

四 分米式斗四升

石盛四

高合四斗四升三合

右者六尺三寸竿を以令検地者也

享保六年丑九月改

河澄四郎右衛門印

片岡権左衛門印

西条徳左衛門印

米沢孫右衛門印

反合壹畝式拾八步

分

下々田式拾六步

八 分米六升九合

石盛八ツ

屋敷壹畝式步

十三分米壹斗三升八合

石盛十三

右者以六尺三寸竿令検地壹反三百歩相究者也

享保申

吉田又右衛門印

辰年九月改

片岡権左衛門印

市村九郎左衛門印

原 六郎左衛門印

常田助大夫印

享保九年

三条村百姓請山改帳

壹本

西畑原

山 長拾式間

横均七間

五畝四步

此見取米九升

新田検地帳 壹本

同所

山 長拾八間

六畝步

此見取米壹斗壹升

西知原

山 長三拾七間半
横均三間壹分

三畝式拾八步

此見取米七升

合 壹反五畝式步
見取米式斗七升

右之通見取定納相究者也

享保九年辰四月改

望月甚左衛門印

河澄四郎右衛門印

吉田又右衛門印

改 西尾利兵衛印

改 宮沢浅右衛門印

三条村請山改帳 壹本

字八会下山

東西四拾間
南北東ノ方ニテ式拾間
同西之方ニ而拾三間

式反式畝步見取山

此見取米三斗

右之請山相改見取上納ニ相極者也

神取十郎左衛門印

元文三年午九月

石川佐大夫印

田浦惣左衛門印

【明和四年三条村秋細見願帳】
菅屋市三条町、左武雄氏
藏○明和四年(一七六七)

(表紙)

明和四年

亥 秋 御 細 見 願 帳

三条村

請山之寛

彌ち込

山 長三拾間
横式拾式間

式反式畝步

此見取米壹俵

元文四年未九月

神藤十郎左衛門印
松井宇右衛門印

但し横帳壹枚

冠者
一 下田壹畝式拾八步

太兵衛、

同
一 下田式拾四步

同 人、

同
一 下田三畝拾式步

同 人、

冠者
一 下田三畝式步

太兵衛、

同
一 下田式畝式拾壹步

同 人、

同
一 中田式畝式拾式步

六兵衛、

同
一 下田壹畝三歩

長兵衛、

同
一 下田壹畝六歩

同 人、

同
一 下田壹畝七歩

同 人、

冠者
一 上田壹畝拾九歩

太兵衛、

同
一 上田式拾歩

長兵衛、

同
一 上田壹畝五歩

長右衛門、

同
一 上田式拾壹歩

同 人、

同
一 下田四畝九歩

六兵衛、

同
一 中田拾六歩

同 人、

冠者
一 中田壹畝拾四歩

六兵衛、

同
一 上田式畝拾九歩

伊右衛門、

同
一 上田五畝式拾六歩

六兵衛、

了信田
一 上田壹畝式拾歩

清兵衛、

同
一 上田六畝九歩

同 人、

垣之へ
一 上田式畝六歩

重兵衛、

垣添
一 上田式畝拾五歩

重兵衛、

同
一 上田式畝三歩

同 人、

同
一 上田壹畝拾九歩

同 人、

同
一 上田三畝壹歩

六兵衛、

中の内
一 中田式畝拾五歩

仁兵衛、

松本
一 上田壹畝三歩

忠右衛門、

松本
一 上田壹畝式歩

忠右衛門、

安カ山
一 上田式拾九歩

六兵衛、

同
一 上田式畝拾四歩

同 人、

同 上田三畝拾歩 同人、
 同 上田壹畝貳拾三歩 同人、
 信時 上田貳畝貳拾六歩 久兵衛、
 (字名迄) 上田四畝貳拾貳歩 久兵衛、
 半田 上田壹畝貳拾三歩 市兵衛、
 同 上田壹畝拾三歩 同人、
 (字名迄) 上田三畝貳歩 同人、
 本分式畝拾貳歩内 中田壹畝拾貳歩 弥三右衛門、
 角田 中田三畝三歩 又兵衛、
 角田 中田四畝拾三歩 又兵衛、
 丸町 上田貳畝歩 同人、
 同 上田三畝拾歩 同人、
 角田 中田九畝五歩 作兵衛、
 西5年 上田貳畝拾四歩 長兵衛、

同 上田六畝貳拾壹歩 同人、
 西5年 中田四畝六歩 市左衛門、
 戸はた 上田七畝拾五歩 吉左衛門、
 九之坪 中田壹反拾七歩 市兵衛、
 丹田 上田貳畝貳拾四歩 又兵衛、
 同 上田四畝拾六歩 同人、
 同 上田貳畝八歩 同人、
 戸はた 上田九畝六歩 八郎兵衛、
 同 上田貳畝拾五歩 嘉右衛門、
 同 上田貳畝拾三歩 同人、
 同 上田壹畝貳拾壹歩 同人、
 同 上田壹畝拾八歩 同人、
 同 上田八畝八歩 善右衛門、
 戸はた 上田壹畝四歩 善右衛門、

同 上田三畝四歩 同人、
 同 上田三畝拾五歩 藤兵衛、

又壹斗四升替

【明和六年三条村持高寄覚帳】 芦屋市三条町、左武雄氏 蔵○明和六年(一七六九)

(内扉)
 明和六歳
 持高寄覚帳
 丑十一月日
 三条村

(表紙裏書)
 掛物 上五 (屋敷) 上畑四四
 中四四 中畑三七
 下三七 下畑式七
 又ハ 下々式七 下々畑式
 畝掛候て 跡を田方ニ割ハ志れ申候

六十八石六升七合
 七九郎迄
 六十六石六斗三升
 市左衛門迄
 四拾六石六斗七升九合
 伊右衛門迄
 貳拾石六斗五升貳合
 貳百貳石貳升九合

照樂寺 屋敷 畑方 八幡田様
 重兵衛 田方
 畑方 新田
 五兵衛 田方
 一壹斗八升三合
 一壹斗 八合
 一壹斗九升
 一三石九斗三升九合
 一四斗七升六合
 一三升貳合
 一貳石六斗三升三合

一三斗式升壹合
一八升
畑方
新田

一斗壹升六合
一七升
畑方
新田

一六石六斗四升貳合
内式石四斗七升八郎兵衛へ入
善左衛門
畑方
新田

一武石三斗七升貳合
又石四斗四升八合藤兵衛へ入
四郎兵衛
畑方
新田

一武斗五升六合
一九升
畑方
新田

一七升六合
一武升貳合
畑方
新田

一四斗八升九合
一壹斗三升壹合
次兵衛
屋舖
畑方

一三石壹斗五升八合
一七升
一壹斗壹升六合
伝兵衛
畑方
新田

一九石壹斗四升壹合
一六斗九升九合
一六斗 七合
六兵衛
畑方
新田

一八石七斗八升貳合
一三升八合
一壹斗三升四合
弥三兵衛
畑方
新田

一壹石貳斗六合
源兵衛
畑方

一武石貳斗六升貳合
藤兵衛
畑方

内壹石四斗四升八合四郎兵衛へ入
一(空白)
一武斗三升四合
畑方
新田

一武升五合
七九郎
畑方
武兵衛

一四石三斗 三合
又壹斗四升
一六斗貳升七合
一武斗六升壹合
畑方
新田

一五石七升六合
一(空白)
畑方
新田

一八石壹斗壹升三合
一武斗八升八合
一五升三合
忠兵衛
畑方
新田

一九斗 九合
一壹斗三升
一六合
忠右衛門
畑方
新田

一九石貳升三合
又壹升
一壹斗六升三合
一九斗七升八合
久兵衛
畑方
新田

一五石五斗三升八合
一壹斗八升九合
一五升九合
兵右衛門
畑方
新田

一七斗三升三合
長右衛門
畑方

一貳升貳合
一七升貳合

畑方
新田

(空白)

畑方
新田

一三石七斗三合
一壹斗七升三合
一四升五合

喜兵衛
田方
畑方
新田

一八石四斗貳升九合
一三升貳合
(空白)

八郎兵衛
田方
畑方
新田

一貳石壹斗四升八合
一六升五合
一四升八合

市右衛門
田方
畑方
新田

一九斗五升
善左衛門久入ル
一六石八斗三升五合
一六升
一三升八合

田方
次右衛門
畑方
新田

一七石三斗四升
一三升貳合
一九升貳合

長兵衛
田方
畑方
新田

一貳石三斗八升壹合
一壹斗貳升三合
一四升八合

作右衛門
田方
畑方
新田

一四石四斗八升壹合

仁兵衛
田方

一四升八合

新田

一六石貳斗四升八合
一三升八合
一四升
一壹石五斗貳升
善左衛門久入ル

市左衛門
田方
畑方
新田
田方

一四石五斗八升六合
一壹斗壹升八合
一四升八合

清兵衛
田方
畑方
新田

一壹石六斗四升五合
一壹斗七升
一七升六合

吉兵衛
田方
畑方
新田

一六石六斗三升八合
一壹斗七升五合
一六升

弥惣右衛門
田方
畑方
新田

一八石壹斗壹升壹合
一壹斗九升貳合
一貳升七合

又兵衛
田方
畑方
新田

一六石六斗八升四合
一三斗六升
(空白)

善兵衛
田方
畑方
新田

一五石九斗四升五合
一八升四合
(空白)

市兵衛
田方
畑方
新田

一五石六斗五升九合
(空白)
一壹斗七升貳合

吉左衛門
田方
畑方
新田

一五石五斗八升五合 伊右衛門
 一斗 七合 田方
 一八升九合 新田
 一四石三斗九升九合 太郎兵衛
 一七升六合 田方
 一斗四升式合 新田
 一石七斗七升八合 嘉右衛門
 一斗七合 田方
 一斗 新田
 一石六斗六升五合 七兵衛
 又五斗三升五合茂兵衛入ル 田方
 一斗五升四合 烟方
 茂兵衛

一三石九斗九合 田方
 内五斗三升五合七兵衛入ル
 一石六斗四升八合 烟方
 一斗式升合 新田
 一五石四斗四升七合 七郎兵衛
 一五斗壹升九合 田方
 一斗 五合 新田
 一七升 步屋舖
 一五石 五合 善右衛門
 一斗 六合 田方
 一斗 七合 烟方
 一斗 新田
 一四石式斗式升合 伊左衛門
 一斗 七合 田方
 一斗 新田

(附箋・◇コレ裏表紙ノウラ右袖ニアリ)

一五十八石壹升八合 忠兵衛迄
 一五斗石三斗四升七合 仁兵衛迄
 一五斗石壹斗八升三合 弥三右衛門迄
 一三十九石七斗壹升三合 步屋敷迄
 四口合
 貳百貳石貳斗六升壹合
 内 貳百貳石三升引ば
 残り高式斗 (三升壹合)

(附箋◇コレ裏表紙ノウラ上ニアリ)

高六拾八石貳斗六升式合 久兵衛迄
 高六拾六石四斗四升五合 市左衛門迄
 高六拾七石壹斗四升八合 伊左衛門迄
 三口 貳百壹石八斗四升八合
 壹斗八升式合不足ニ
 相見申候

(裏表紙ウラ)
 貳百貳石壹斗六升八合

内貳百貳石三升引

残而壹斗三升八合見へ申候

(抑紙) 高 貳百貳石壹斗八合

【明和八年三条村早稻細見願帳】 芦屋市三条町(左武雄氏 藏) ○明和八年(七七)

(表紙)

明和八年八月 卯早稻御細見願帳

三条村

合一中田壹畝貳拾六步 七郎兵衛分 ●○
 内壹斗三升五合引
 合一中田六畝貳拾九步 同 人分 ●○
 内五斗四升壹合引
 本步五畝貳拾八步之内
 合一中田三畝貳拾步 仁兵衛 ●○
 内三斗式升六合引
 合一中田壹畝貳拾步 五兵衛 ●○
 内壹斗四升八合引
 合一上田拾五步 吉左衛門 ●○

内式升八合引	同 人 ● ○
合一上田壹畝七步	同 人 ● ○
内七升五合引	
合一上田贰畝七步	同 人 ● ○
内卷斗式升四合引	
合一中田贰畝拾八步	仁兵衛 ● ○
内卷斗九升五合引	
合一上田贰拾九步	六兵衛 ● ○
分米壹斗四升五合引	
合一上田三畝拾步	六兵衛 ● ○
分米五斗引	
合一上田三畝拾步	吉右衛門 ● ○
分米贰斗三升壹合引	
合一上田壹畝拾八步	伊左衛門 ● ○
内八升九合引	
合一上田壹畝五步	又兵衛 ● ○
分米壹斗式升八合引	
合一上田壹畝拾壹步	同 人 ● ○
内九升九合引	
合一上田壹畝拾六步	伊左衛門 ● ○

内九升四合引	伊左衛門 ● ○
合一上田六畝式拾四步	
内四斗壹升五合引	太兵衛 ● ○
本步四畝式拾步之内	
合一上田贰畝式拾步	市兵衛 ● ○
内式斗五升引	
合一上田壹畝式拾三步	市兵衛 ● ○
内式斗引	
合一上田壹畝拾三步	同 人 ● ○
内八升八合引	
合一上田三畝式步	同 人 ● ○
内卷斗八升七合引	
合一中田贰畝拾式步	弥三右衛門 ● ○
内卷斗三升三合引	
合一中田贰拾八步	弥三右衛門 ● ○
分米壹斗式升壹合引	
合一中田贰拾八步	同 人 ● ○
分米壹斗式升壹合引	
本步四畝式拾五步之内	
合一上田贰畝式拾五步	市兵衛分 ● ○
内卷斗七升三合引	

合一上田拾六步	同 人 ● ○
分米五升九合引	
合一上田拾六步	市兵衛 ● ○
分米四升三合引	
合一上田壹畝六步	同 人 ● ○
分米九升六合引	
合一中田壹畝四步	清兵衛 ● ○
分米壹斗四升七合引	
合一中田九步	長兵衛 ● ○
分米三升九合引	
合一中田贰畝拾式步	長兵衛 ● ○
内式斗引	
合一中田贰拾壹步	同 人 ● ○
内五升四合引	
合一中田贰拾三步	伊右衛門 ● ○
内六升八合引	
合一中田拾壹步	同 人 ● ○
分米四升八合引	
合一上田三畝式拾五步	長兵衛 ● ○
内三斗九升引	

合一上田三畝壹步 清兵衛 ●○
 内式斗八升六合引
 合一下田拾七步 清兵衛 ●○
 内三升八合引
 合一下田壹畝步 長兵衛 ●○
 分米壹斗壹升引
 合一上田三畝八步 市兵衛分 ●○
 内式斗引
 合一上田壹畝式拾步 三右衛門 ●○
 内壹斗壹升壹合引
 合一上田四畝步 市兵衛 ●○
 分米六斗引
 合一上田式畝式拾八步 久兵衛 ●○
 内式斗四升四合引
 合一上田式畝拾式步 久兵衛 ●○
 内式斗九升引
 合一中田三畝八步 八郎兵衛 ●○
 内三斗八合引
 合一上田三畝式拾三步 作兵衛 ●○
 内三斗五升引

本步壹畝式拾八步之内 八郎兵衛 ●○
 合一上田壹畝步
 内九升四合引
 合一下田三畝五步 太兵衛 ●○
 内式斗壹升壹合引
 本步壹畝四畝式拾六步之内 五兵衛 ●○
 合一上田壹畝拾步
 内八升壹合引
 寅年御免八ツ壹步
 十五 上田ノ七反四畝式拾壹步
 十三 中田ノ四反五畝拾五步
 十一 下田ノ壹反拾三步
 八 下々田ノ壹畝拾六步
 合老町三反式畝五步
 右之通御細見奉願候以上
 三条村年寄 仁兵衛印
 同村庄屋 長兵衛印

御奉行様

卯秋早稻検見引寄
 高合拾壹石壹斗四升式合
 以上

八月 平林清次印
 久保田形八印
 大庄屋野寄 高井宗官印

【嘉永五年三条村新畑検地帳】 神戸市垂水区、左博氏蔵
 ○嘉永五年(八五二)
 (表紙)

嘉永五子年
 撰州兔原郡三条村新畑検地帳
 十一月

字宗四寺
 一 東西拾六間
 一 南北平均三間半
 此壹畝式拾六步
 同 村持

一 東西拾七間
 一 南北平均三間半
 此壹畝式拾九步半

反畝合三畝式拾五步半 石盛八つ
 分米三斗八合
 右者六尺三寸半を以令検地壹反三百歩相究もの也
 子十一月 杉山鉄蔵印
 小森亨印
 中嶋長左衛門印
 門脇村次印

【年季奉公人請証文】 芦屋市三条町、左武雄氏蔵
 ○正徳五年(七一五)
 年切奉公人請状之事

4 戸 口 追加
 一 播州揖西郡下沖村五兵衛粹、年拾三罷成候三四郎と申
 者、当未十二月十一日ノ中年拾貳年切未ノ十二月十一日
 迄、其給銀九拾貫相定、則只今不残借用仕、御奉公致さ
 せ申所衷正也、若此者年之内、取逃欠落仕候者、急度尋
 出其品々相改、相立可申候、此者御意ニ入不申候ハ、

人を相立申候敷、又ハ借用之銀子ニ加判、是ヲ相立可申敷、如何様共御望次第ニ可仕候、仕着セ之義者、其身相応之被成可被下候、宗旨之義ハ寺証而別紙ニ取進可申候、為後日請状仍而如件

播州下津村奉公人

三四郎

正徳五年十二月十一日

同村親

五兵衛(印)

同村証人

善左衛門(印)

同村年寄

助太夫(印)

摂州三条村
喜左衛門(印)

【家出人留出書付】 芦屋市三条町、左武雄氏藏
○安永九年(一七八〇)

乍恐以書付願申上候

一 当村忠右衛門女子、年廿八よしと申者、正月廿五日家出仕候所、段々たつね候得共行衛知不申候、依之此度人別御帳面ニ行衛知御願申上候、右願之通為被仰付被下候ハ、難有可奉存候、以上

安永九子二月

三条村願主
忠右衛門(印)
同村年寄
仁兵衛(印)

井出弥平太様
大沢 巖様

同断
八郎兵衛(印)
同村庄屋
長兵衛(印)

【人別請証文】

芦屋市三条町、左武雄氏藏
○安永三年(一七七四)

一札之事

一 松平遠江守様御領分三条村長兵衛娘、年廿一つたと申者、当村善右衛門妻ニ申請候ニ付、此方人別帳面ニ書入申候、其元人別帳面御除可被成候、此者ニ付自今以後如何様之六ヶ敷儀出来仕候共、其方に少も御苦勞掛申間敷候、尤善右衛門宗旨之儀ハ、代々浄土宗当村安楽寺旦那那無御座候、為後日、仍而如件

辻六郎左衛門殿御代官所

摂州兔原郡芦屋村

年寄

庄三郎(印)

同村庄屋

市郎右衛門(印)

安永三年十一月

尼崎御領分三条村庄屋
長兵衛殿

【人別請証文】

芦屋市三条町、左武雄氏藏
安永三年(一七七四)

一札

一 其御村五兵衛世傳宗兵衛、年三拾九ニ相成候、此度船頭町鍵屋惣七方江養子ニ望申ニ付、当所人別帳江書入申候、其元人別帳御除可被成候、然ル上ハ此ものニ付、金銀掛リ合者不及申ニ、其外いヶ様之六ヶ敷儀出来候共、其元江少茂御苦勞掛申間敷候、尤宗七宗旨之儀者代々東本願寺宗ニ而、則当所北国町徳円寺旦那那二紛無御座候、為後日之、依而如件

石原清左衛門様御支配所

近江国志賀郡大津船頭町

鍵屋宗七(印)

船頭町五人組

孫右衛門(印)

年寄
勘三郎(印)

安永三年
十二月

摂州尼崎御領分

兔原郡三条村庄屋

長兵衛殿

【宗旨人別送状】 芦屋市三条町、左武雄氏藏
○安永五年(一七七六)

送一札

一 尼崎御領分三条村宇兵衛妹、年廿八才さわと申者、此度其御地尼屋彦兵衛妻ニ望申候ニ付、遣シ申候、其御地人

別御帳面へ御加へ可被成候、此方人別帳面除キ可申候、尤此者儘成ル者に而、金銀懸り合ハ不及申ニ、其外何之差構無御座候、宗旨之儀ハ代々浄土真宗同村照楽寺旦那那二紛無御座候、則寺請状別紙ニ取遣シ可申候、為後日、人別送り手形、仍而如件

安永五年十二月

摂州兔原郡三条村

宇兵衛(印)

同村庄屋

長兵衛(印)

同村年寄

仁兵衛(印)

同村同断

八郎兵衛(印)

同国武庫郡西宮庄屋

勘助殿

【人別請証文】

芦屋市三条町、左武雄氏藏
○安永七年(一七七八)

一札之事

一 其御村吉左衛門粹善七与申者、此度当地嘉重郎方江養子ニ申請候ニ付、当村人別帳面へ書入申候、其御村人別帳面御除可被成候、然ル上ハ自今以後此者ニ付、金銀之掛合ハ不及申、其外如何様之六ヶ敷儀出来仕候共、其元ハ少も御苦勞相掛申間敷候、尤嘉十郎宗旨代々真言ニ而阿弥

陀寺之旦那二紛無御座候、為後日、仍而一札、如件

高野山行人方御領分紀州伊都郡教良寺村

養親 嘉重郎(印)

安永七戊戌年

二月

請人 新三郎(印)

庄屋 藤吉(印)

年寄 幸吉(印)

摂州兔原郡三条村
長兵衛殿

安永八亥正月

三条村

(マ) (マ) (マ)

5 入 会 追加

【入会山立入申合加判一札】

芦屋市三条町、左武雄氏藏

○宝曆十一年(一七七六)

兼而申附置候通、御林ニ入小松吉本ニ而も伐取申事堅致間
鋪候、近頃狼ニ相成、村人御林江入、我儘之働仕有之様ニ

相聞へ申ニ付、此度印判取置申候

此後御林江入、村役人目ニ掛りか、又ハ山番ニ而も見とが

められ候ハ、早速吟味仕、御断可申上候、為其印判、如

件

宝曆拾一年

巳正月

村役人

五兵衛(印)

重兵衛(印)

善左衛門(印)

伝兵衛(印)

六兵衛(印)

源兵衛(印)

【養子願書付控】

芦屋市三条町、左武雄氏藏

○安永八年(一七七九)

乍恐以書付奉願候

一万年七郎右衛門様御支配所、同国西成郡下福嶋村多田屋

治左衛門借家、住吉十兵衛世傳年三十二罷成候平治郎、

私シ養弟ニ申請度奉願申上候

三条村願主

与兵衛

右之養弟平治郎、恆成者ニて、金銀之掛合不及申、其外
何之差構も無御座候段、先方役人之一札取差上申候、依
之当村人別御帳面へ書入申度奉願上候、右願通被為仰付
被下候ハ、雖有奉存候、以上

九兵衛(印)

弥三兵衛(印)

八郎兵衛(印)

さや(印)

又四兵衛(印)

武兵衛(印)

久兵衛(印)

藤兵衛(印)

吉左衛門(印)

忠右衛門(印)

治右衛門(印)

甚兵衛(印)

弥三右衛門(印)

兵右衛門(印)

三右衛門(印)

三郎兵衛(印)

市兵衛(印)

市左衛門(印)

又兵衛(印)

吉兵衛(印)

伊兵衛(印)

太兵衛(印)

嘉右衛門(印)

善右衛門(印)

伊左衛門(印)

長右衛門(印)

市郎右衛門(印)

茂兵衛(印)

七兵衛(印)

七郎兵衛(印)

伊右衛門(印)

喜兵衛(印)

右年々被為仰附候通、堅相守為可申候、一紙印形指上可申
候、以上

【入会山立入申合一札】

芦屋市三条町、左武雄氏藏

○明和七年(一七七〇)

一札之事

一兼而被仰付候御林之内、随分御大切ニ仕、一切御林之内

入込、小木たりとも伐取申儀不仕候へ共、御大切ニ御座

候へハ、猶又此度御役人中々被入御念、末々迄家堅ニ而

も御申渡シ被成承知仕奉畏候、自今以後御林江入込、少

之者ニ而も伐歸リ候儀有之候か、又ハ山番ニ見とかめら

れ不亂^(時)成儀相聞へ候ハ、早速供々吟味仕、其上御断

差出可申候、為其印形取置申候、以上

明和七寅年

四郎兵衛(印)

藤兵衛(印)
 弥三兵衛(印)
 伝兵衛(印)
 八郎兵衛(印)
 宇兵衛(印)
 作兵衛(印)
 又四郎(印)
 吉左衛門(印)
 六兵衛(印)
 善左衛門(印)
 治兵衛(印)
 十兵衛(印)
 五兵衛(印)
 善兵衛(印)
 弥三右衛門(印)
 忠右衛門(印)
 久兵衛(印)
 作右衛門(印)
 三郎兵衛(印)
 市兵衛(印)
 市左衛門(印)
 又兵衛(印)
 兵右衛門(印)
 吉兵衛(印)
 太兵衛(印)

善右衛門(印)
 嘉右衛門(印)
 伊左衛門(印)
 長右衛門(印)
 市右衛門(印)
 七郎兵衛(印)
 七兵衛(印)
 茂兵衛(印)
 伊右衛門(印)
 喜兵衛(印)
 源兵衛(印)

○明和八年、コノ文書ト同文一通アリ、連判者ハ、忠兵衛一名増シアリ

【入会山立入内済願一札】 芦屋市三条町、左武雄氏藏 ○明和八年(一七七七)

一札之事

一当村方江御預被遊候御林之儀、兼而被仰付候御法度之趣堅相守候所、此度御林之内鎌留之場所ニ而、下草苅取御廻り様方々御崇ニ預リ、村中参会之上友吟味ニ仕候へ共、相知レ不申、村中一同ニ殊外恐入難儀仕候、依之村役人衆段々御詫申被上被下候得共、内分ニ而ハ相済不申、甚難儀仕候故、村中相談之上、森村津知村御役人中様方へ御苦勞御願申、何分此度之義者御内済ニ被成被下候様、

御詫頼被下度奉存候、以後ニ付猥ケ間敷義者急度相慎可申候、万一縦得心違ニ而小松ハ勿論、小枝ニ而も刈取候者有之候ハ、友吟味ニ仕、御支配方へ相届ケ可申候、其節如何様之御過料被仰付候共、相互ニ少も恨無御座候 (後欠)

【入会山立入内済頼口上書】 芦屋市三条町、左武雄氏藏 ○明和八年(一七七七)

口上書を以御頼申上候

一当村御林之内、字丞げ山東原鎌留之場所、此度下草枝折等仕罷有候ニ付、此節御林御見廻り様方之掛御目ニ、段々御吟味被遊候ニ付、早速村中寄合委細承り申所、馬踏入一言之申分も無御座、依之役人中始メ村中打寄いろいと御合申候へ共、右之場所者野山江之往来道ヘリニ御座候へ者、子供之訳ニ御座候哉、何連之輩とも相知レ不申候、依之一向致方も無御座奉恐罷有候、此上之儀者未々迄随分堅ク申合、村中致連判等友吟味ニ仕、以来者ケ様之品無御座候様ニ相慎可申候、何卒此度之儀ハ各作御苦勞御詫言被仰上、御慈悲之上御聞済被成被下候様、御詫被下度奉願候、何分当惑仕候ニ付、相談之上村惣代とし而私共御頼ニ罷出申候、何連ニも御免被成被下候様ニ

御働被下候ハ、村中一同ニ御慈悲難有可奉存候、以上

三条村百姓
 市兵衛(消印)
 七郎兵衛(消印)
 五兵衛(消印)
 八郎兵衛(消印)

右之通拙者共一言之申分無御座候、然ル上ハ村中一同ニ各々方江御頼申候通、御詫被仰上御内分ニ御済被下候ハ、難有仕合ニ可奉存候

同村
 山ばん
 長右衛門(消印)
 年寄
 仁兵衛(消印)
 庄屋
 長兵衛(消印)

津知村
 弥右衛門様
 森村
 利兵衛様

【山見取米用捨願一札】 芦屋市三条町、左武雄氏藏 ○安永四年(一七七五)

乍恐書付以御願奉申上候

字名欄ち込
 一見取山 長三拾間 式反式畝歩
 横式拾式間
 分米四斗

右者享保八卯年御願申上御檢地申請、代々相伝ニ御座候処、私身上不勝手ニ付御上納ニ差詰、去ル酉年伐り取ニ御願奉申上候処、御免被為成下難有奉存、壳私御上納ニ相立申候、其以來十ヶ年之間御年貢御上納仕、小松生立候得共、段々不仕合打統困窮仕、相伝之田畑不残、家屋敷諸道具迄茂壳私、必至と難儀仕候ニ付、御上納難相立候ニ付、近年者村方々致合力被與候得共、右村方茂困窮仕候得者甚難儀仕候、乍恐右御見取山御見分被為成下、御見取米之内御用捨被為成下候者、御見取米上納も相談可仕候間、御憐愍之上何卒願之通被為仰付被下候者、御慈悲難有可奉存候、以上

安永四未年 九月 三条村願主 久兵衛(印) 同村年寄 八郎兵衛(消印) 同 断 仁兵衛(消印) 同村庄屋 長兵衛(消印)

古沢常右衛門様 松崎又左衛門様

【入会山五人組連判難儀】 芦屋市三条町、左武雄氏藏 ○安永六年(一七七七) 一札之事

長兵衛方へ参り被申候儀者、此度三条村養水冠郷川森村同断、此川筋東縁菅屋村支配地ニ水車場式輛建立仕度奉存候所、此度 辻六郎左衛門様御見分次手有之候ニ付、則御見分申請置候、其節 辻六郎左衛門様御手代上村井仙藏様御見分之上被仰候ハ、三条村役人江用水差構筋有無之相糺候哉と御尋有之候、乍御太儀当村御役人中御立合被下度被為段々相願被申候ニ付、森村庄や利兵衛方へ右之趣申達、三条村役人森村利兵衛同道ニ而、未六月廿日以前ニ内見仕候、其節菅屋村願主九左衛門年寄十左衛門右兩人立合、兩村々右菅屋村江申候者、元来何連も御存之通冠郷川養水之儀者昼者森村夜ルハ三条村江取来り候養水ニ御座候へ者、水車出来候而ハ差支ニも相成申義理ニ候得共、隣村之義ニ御座候得者、彼は無抛相對仕候、右水車之儀ニ付、兩村之養水ニ差構筋者、後々年至迄急度為致不申様、菅屋村々被申候而相對仕置候、尤右水車之儀者、酒造米踏車之儀ニ御座候へハ、八月彼岸ノ二月彼岸迄相働、夏之分ハ相働不申候等ニ相極置候、乍此上為急一札被成候哉と相尋候処、其段者如何様共御望之文言下書之通、早速本紙相認差出シ可申候、其上普請等仕管ニ相對仕置候、其後本紙一札を差おさへ、剩三条村用

一前々々仰被渡候御法度之趣、承知仕候奉畏候、尚又此度急々入村役人中申被渡候趣、承知仕候
一御林之内ニ而、大小不限、松木類ハ勿論、下草等迄、猥リニ伐り取申間敷候、并ニ荷葉杯ニ至迄、平日ニ山之口外一切猥リニかき取申間敷候、右御法度趣、堅ク相守可申候、以上

安永六酉年正月 三条村百姓 誰 誰 誰 同 断 誰 印

右之通御法度之趣、村中参会之上承知仕、一紙ニ連判急度相守可申候、毎月五人組頭々度々吟味可仕候、若御法度趣相背之者御座候ハ、村役人中へ訴出、差図ニ可候、其上如何様之御咎ニ預り候共、入用之義者五人組中急度相勤、村方へ一切世話申間敷候、仍而五人組頭連判、如件

6 水 車 追 加

【水車新建口上】 芦屋市三条町、左武雄氏藏 ○安永五年(一七七六) 乍恐以口上書を奉申上候 一去ル未六月中時分ニ菅屋村九左衛門与申者、三条村庄や

水ニ付差構無之一札致具候様、以下書を申来候へ共、当村ニハ不得心ニ御座候故、是迄埒明不申候ニ付、此度相對之趣、御尋ニ御座候ニ付、有躰之通奉申上候、以上

三条村年寄 八郎兵衛(消印) 同村同断 仁兵衛(消印) 同村庄や 長兵衛(消印) 森村年寄 利右衛門(消印) 同村同断 善太夫(消印) 同村庄や 利兵衛(消印)

岡部奥太夫様

【粉挽車稼一札】 芦屋市三条町、左武雄氏藏 ○安永八年(一七七九)

一当村新兵衛与申者、其村江出店粉挽車稼いたし罷在候、此者儘成ものニ而、宗旨ハ代々一向宗当村照樂寺且那ニ紛無御座候、其村ニおゐても 御公儀御法度之儀者不及申、惣而猥ケ間敷義不致様ニ申渡し候、為後日一札、仍而如件

安永八年
亥七月

尼崎御領分三条村
新兵衛

年寄
庄屋

青木楠五郎様御預り所
横屋村庄屋
伊右衛門殿

候、為後日調印仕候処、如件

嘉永七寅年
十二月

芦屋村
御役人中

三条村
庄屋
年寄
誰
印

【水車稼差入一札】

芦屋市三条町、五味五兵衛氏藏
○嘉永七年(一八五四)

差入申一札

一此度私儀心得違ニ而、其御村字涼塚先年々在来り分水、芦屋村之用水之分積留、三条村新規之水車江引取候ニ付、既ニ御役所江御訴可被成候処、仲人ヲ以段々御託仕候処、御勘弁ヲ以御濟被下忝奉存候、向後者急度相慎、心得違決而仕間敷候、為後日、依而如件

三条村
八郎兵衛水車
稼人
誰
印

右之通取噺事濟被下、然ル上者右水車稼人相替り候共、急度申聞置、先規仕来り之通堅相守可申候、万一心得違出来候得者、右水車為取払、芦屋村之差支一切為仕間敷

【水車稼約定証文】

芦屋市三条町、五味五兵衛氏藏
○元治元年(一八六四)

水車稼約定一札之事

一野寄谷粉車轆、私シ勝手ニ付、此度相對ヲ以、当丑ノ正月々来ル戌ノ十二月迄丸拾ヶ年之間、壹ヶ年ニ付借賃銀壹貫百目宛ニ相究申出矣正也、然ル上者毎年三月晦日限り銀五百五拾匁、又十二月廿五日迄ニ銀五百五拾匁、都合壹貫百目づゝ、毎年急度相立可申候、若し壹ヶ度ニ而も相滞候ハ、外方江御貸付被成候共、一言之申分毛頭無御座候、為後日之、水車借受一札、依而如件

(慶応)
元治元年
丑正月

水車借主
岡本村
源兵衛(印)
請人森村
嘉平治(印)
三条村
五兵衛殿

【水車借受証文】

芦屋市三条町、五味五兵衛氏藏
○慶応元年(一八六五)

覚

一水車借賃銀壹貫百五拾匁定、但し車屋敷建家之屋根ふき者勿論、此外四つ枕志んばう水志やくと損事候得ば、其元殿より仕立商売ニ差支不申様、普請可被下候事、尚又其外戸井井ニ井手水引川手杯、何程相あれ候共借主より仕立、貴殿へ少し茂御難相掛ケ申間敷候、為後日之、約定書、依而如件

岡本村借主
源兵衛(印)
受人森村
嘉平治(印)

三条村
五兵衛殿

【水車売渡証文】

芦屋市三条町、五味五兵衛氏藏
○慶応三年(一八六七)

覚

一貴殿所持之水車、此度私シ共中人いたシ、岡本村増田屋源兵衛方へ売渡シ可申約定ニ付、右代銀之内江金子貳拾兩相渡候、尤残銀之義者、私シ共引請急度相立可申候、若シ当月中日数相掛候ハ、月壹歩之利足ヲ相添、無滞相渡シ可申候、為後日、証文、如件

慶応三

卯七月初日

三条村
五兵衛殿

森村庄屋
嘉平治(印)

7 菜種売捌 追加

【菜種売捌高届書】

神戸市垂水区、左博氏藏
○文政十年(一八二七)

乍恐口上

一菜種子百拾石五斗
内七拾九石貳斗

分

一貳拾四石

一拾貳石

一三拾貳石

一拾壹石貳斗

当亥作高
此節迄ニ売払

分株撰州兔原郡
芦屋村中田屋
利左衛門方へ売申候

六一之内水車絞株
撰州兔原郡兵庫津
西出町日向屋善右衛門方へ
売払申候

六売之内水車絞株撰州
兔原郡住吉村万屋
辰次郎方へ売申候

六一之内水車絞株撰州

武庫郡西之宮横町
筋木村屋龜太郎方へ
売申候

七拾九石式斗

右之通当亥年菜種売払候処相違無御座候、以上
残而三拾壹石三斗
只今村方ニ所持
仕置有之分

文政十亥十一月

三条村庄屋預り
原田村庄屋
重左衛門 印

平野本治様

【菜種売捌高届書】

神戸市垂水区、左博氏藏
○文政十一年(一八二八)

乍恐以書付御届奉申上候

当子年作方
一菜種子百九石六斗

内

六石式斗

水車絞株
摂州兔原郡
兵庫津西出町
日向屋善右衛門方へ
売渡し申候

残而百三石四斗

右之通当子年菜種子作高売渡し方、并當時所持仕罷在候分
共、以書付御届奉申上候、以上

文政十一年
子五月十二日

平野本治様

【菜種売捌高届書】

神戸市垂水区、左博氏藏
○文政十一年(一八二八)

乍恐以書付御届奉申上候

一菜種子百九石六斗

内九拾四石六斗

分

六石式斗

六一之内水車絞株
摂州兔原郡兵庫津
西手町日向屋
善右衛門方へ売
払申候
六一之内水車絞株
摂州武庫郡
八拾八石

三条村
年寄

八郎兵衛 印

文政十一年
子十二月

右之通当子年菜種子売払候処相違無御座候、以上
残而拾五石四斗
只今村方ニ所持
仕置有之分

三条村年寄

八郎兵衛

文政十一年十二月

同村庄屋預り
原田村庄屋
重左衛門

平野本治様

【菜種売捌届書】

神戸市垂水区、左博氏藏
○文政十一年(一八二八)

乍恐以書付御届奉申上候

去亥年売残高

一菜種子三拾壹石三斗

分株摂州兔原郡
住吉村米屋
庄左衛門方へ売払
可申候

右者当子三月迄ニ売払可申候ニ付、乍恐此段御届奉申上候、
以上

八月廿一日

同村庄屋預り
原田村庄屋
重左衛門

平野本治様

【菜種売残高書上】
神戸市垂水区、左博氏蔵
○文政十二年(一八二九)

乍恐以書付御届奉申上候

一菜種子拾五石四斗

只今村方ニ有之候分

右者去ル子年売残候石数高相違無御座候、以上

文政十二年

丑八月廿七日

三条村
年寄
八郎兵衛

平野本治様

【菜種売捌高書上】
神戸市垂水区、左博氏蔵
○文政十二年(一八二九)

乍恐以書付御届奉申上候

一菜種子百六石七斗

当丑年作高

内四拾四石四斗

此節迄ニ売払申候

分

拾四石斗

六一之内水車絞株
摂州兎原郡兵庫
津葉師前組屋

平野本治様

式拾七石

藤左衛門方へ売払
申候

六一之内水車絞株

摂州兎原郡兵庫

津西手町日向屋

善右衛門へ売払申候

三石壹斗

六一之内水車絞株

摂州武庫郡西ノ宮

横町筋木村屋

龜太郎方へ売払
申候

四拾四石四斗

右之通当丑菜種子売払候処相違無御座候、以上

残而六拾式石三斗

只今村方ニ
所持仕置候

有之分

文政拾貳

五十一年十八日

三条村
年寄

八郎兵衛

同村庄屋預り
原田村庄屋

重左衛門

【菜種売残高書上】
神戸市垂水区、左博氏蔵
○文政十二年(一八二九)

乍恐以書付御届奉申上候

一菜種子拾五石四斗

去子年
売残高

右之通只今村方之所持仕置候有之分相違無御座候、以上

三条村

年寄

八郎兵衛

文政十二

丑十一月日

平野本治様

8 酒株・酒造稼 追加

【救済銀下附願書】
芦屋市三条町、左武雄氏蔵
○安永六年(一七七七)

乍恐書付以奉願上候

一私祖父久兵衛并美父久兵衛代迄ハ、田高八拾石余所持仕、

其上酒造千式三百石余商売仕来候処、親久兵衛存生之内、

江戸表間屋倒井海上等度々相続、段々不仕合罷成候ニ付、

右田地も追々売払申候、勿論酒造□□道具居宅をも不残

売払申候、殊ニ私義ハ幼年ニ而親共ニ離申候而難渡仕候、

当時漸々三間ニ四間御座候米蔵ニ住宅仕候罷在候、私義

病身者ニ御座候而、農業も勤相勤、少々相残候田地之分

願主三条村

久兵衛

も、同村作兵衛与申者へ十ヶ年限預置申候而、一人之弟

義茂酒屋持仕、私義茂奉公仕、今日を相渡居申候、右之

仕合御座候故先祖之仏事等も相勤兼、歎ケ敷奉存候、其

上少々借金茂相残り居申候而難儀仕候、愚父共々承伝申

候処、先年御上様へ少々銀子差上申候由、只今之私義何

卒御慈悲之上右之銀子此度御下ヶ被下置候ハ、小商内

ニ而茂仕渡世仕度奉願上候、則左之通承伝罷在候

一銀壹貫目 享保十八丑年

一同式貫目 元文五申年

一同八百目 寛永四未年

右之通差上置候様承伝申候、乍恐 御上様御控御引合被

遊被下候様奉願上候、尤御証文者私方ニ者無御座候、仲

間江被下置候御証文ニ而魚濟村十兵衛方ニ御座候由、是

又承伝申候、右之趣昨年御願奉申上候処、御間届被成下

候而、銀五百匁被下置難有仕合奉存頂戴仕候、右之私義

ニ御座候得者此上御憐愍之上当暮茂被下置候者、重疊難

有可奉存候、右奉願上候通御間届被成下候ハ、広太之

御慈悲難有可奉存候、以上

安永六酉年
十二月

10 その他 追加

1、売券

【田地永代売渡証文】 芦屋市三条町、左武雄氏蔵
○寛文八年(一六六八)

永代売渡シ申田地之事

合丁銀三百四拾目也

右之銀子申之年御年貢米ニ相詰リ申ニ付而、六条下田巻反四畝貳拾四步、但斗代者巻石六斗三升ニ相究、永代売渡シ申所実正明白也、縦天下一道之徳政大違乱、或者御地頭替リ有之候共、子々孫々ニ至迄、一言之違乱申者在之間舖候、若違背之輩於有之者、此判形之者共罷出、紙面之通急度埒明可申候、為後日之、連判にて判形、仍如件

寛文八年

申極月十一日

深江村売主

孫兵衛(印)

同村庄や

久右衛門(印)

同村年寄

善右衛門(印)

同

与三兵衛(印)

同 二郎兵衛(印)

同 善太夫(印)

口入 一郎兵衛(印)

【本物返田地売渡証文】 芦屋市三条町、左武雄氏蔵
○元禄十六年(一七〇三)

本物返シ売渡シ申田地之事

字ハ内作津知村領也

一上田巻反七畝拾步 町数三ツ

但シ御帳面次第也

右之田地雖為相伝と、未年御年貢ニ指詰リ申ニ付、代銀貳貫目ニ売渡申所実正也、此田地ニ付脇ノ毛頭かまひ無御座候、若何角と申者在之候ハ、此判形之者罷出、急度埒明可申候、為後日、売券状、仍一札、如件

元禄拾六年未ノ十二月廿三日

森村売主清兵衛

後 家(印)

同村請人

九郎左衛門(無印)

同村同断

角 兵衛(印)

同村同断

与 兵衛(印)

同

三条村 理兵衛殿

【田地讓渡証文】 芦屋市三条町、左武雄氏蔵
○寛保元年(一七四一)

譲リ申田地之支

字内作リ

一下田貳畝拾五步

斗代式斗七升五合

右之田地雖為相伝、此度其元へ譲リ申所実正也、此礼物として銀六拾五匁ニ請取申候、此田地ニ付、他之妨毛頭無之候、若違乱妨申者有之候ハ、判形之者共罷出、急度埒明可申候、為後日、田地譲リ証文、仍而如件

寛保元酉年十二月日

津知村譲リ主

太郎兵衛(印)

同村 証人

太兵衛(印)

同村 年寄

九兵衛(印)

同村 庄屋

半 六(印)

三条村

長兵衛殿

【田地下作証文】 芦屋市三条町、左武雄氏蔵
○宝曆九年(一七五九)

下作証文之事

一字名水とき

町数六ツ

右之田地我等下作仕候所実正成、御年貢米之義上納ハ不及申、諸役掛もの、此方々急度相動可申候、右作間米として米八斗宛毎年相立可申候、若ニケ年ニ而も相滞候ハ、作人何方へ成共御替被成可被下候、其時一言之申分無御座候、為後日、下作証文、依如件

宝曆九年

卯十二月

下作人同村 弥三右衛門

請人 市左衛門

同村 八郎兵衛殿

【本物返畑地売渡証文】 芦屋市三条町、左武雄氏蔵
○安永四年(一七七五)

本物返シ売渡シ申畑之事

字ハあの山

一下々畑四畝貳拾四步

分米壹斗九升六合

二下々畑三畝五步

分米壹斗貳升七合

町数六ツ但シ大岩小池共

右之畑我等所持仕候へ共、未年御年貢米ニ指詰リ申ニ付、代銀三百三匁売渡シ申所実正明白也、此畑ニ付、脇ノ違乱妨申者無之候、方一六ヶ敷義出来仕候ハ、加判之者罷出、急度埒明可申候、為後日、売券証文、仍而如件

三條村売主
久兵衛
請人兵 藏
同村年寄仁兵衛
同断八郎兵衛

安永四年末
十二月
同村庄や
長兵衛殿

【田地売渡証文】 芦屋市三条町、左武雄氏藏
○安永七年(一七七八)

- 売渡シ申田地之事
- 一下田畝五歩 斗代高 壹斗式升九合
 - 一下田畝八歩 同 壹斗四升
 - 一下田畝四歩 同 五升式合
 - 一下田畝廿歩 同 壹斗八升四合
 - 分米合五斗五合但シ町敷三ツ

右之田地我等所持仕候得共、去ル酉年御年貢米ニ指詰リ申ニ付、代銀壹貫目買渡シ、銀子儘ニ請取上納ニ相立申所相違無御座候、此田地ニおゐて、脇ノ何角申者少も無御座候、

則殊ニ先前々請取申古証文相添相渡シ申候、若万一何角と申者有之出来仕候ハ、此連判之者罷出、急度埒明少も貴殿へ御世話掛申間敷候、為後日、売券証文、仍而一札、如件

安永七戌十二月
同村請人 七兵衛
同村年寄 茂兵衛
同断 仁兵衛
八郎兵衛

【年賦田地売渡証文】 芦屋市三条町、左武雄氏藏
○宝曆六年(一七五六)

- 拾年符ニ売渡シ申田地之事
- 一上田七町六歩 斗代御帳面之次第

右之田地我等所持ニ御座候得共、代銀四百目ニ売渡シ申所実正明白也、右之田地我等勝手ニ付請作仕候、作間銀として壹ケ年ニ銀五拾式匁宛急度相立可申候、若一ケ年ニ而も不足仕候ハ、貴殿名前ニ被成可被下候、其時一言之申分

無御座候、為後日、売券証文、依如件

宝曆六年
十二月
請人 市左右衛門(印)

同村
長兵衛殿

【本物返田地売渡証文】 芦屋市三条町、左武雄氏藏
○明和四年(一七六七)

- 本物返売渡シ申田地之事
- 字宮かいち町
一下田三畝式拾四歩 斗代高 四斗壹升八合
 - 同所
一下田三畝五歩 斗代高 三斗四升八合
 - 字出口町
一上田壹畝歩 斗代 壹斗五升
 - 同所町
一上田三畝式拾三歩 斗代高 五斗六升五合
 - 同所町
一中田三畝八歩 斗代高 四斗三升八合

右之田地我等所持仕候所、去ル戌十二月御米四拾式俵御拜借米ニ指詰リ、代銀壹貫四百目売渡シ申所実正明白也、此田地ニ付、脇ノ違乱妨申者無之候、万一六ヶ敷儀出来仕候

ハ、加判之者罷出、急度埒明可申候、為後日、売券証文、仍如件

明和四年亥四月

- 三條村庄屋
売主 治兵衛(印)
請人 仁兵衛(印)
同 重兵衛(印)
同 太兵衛(印)
同 五兵衛(印)
同 伊左衛門(印)
同 馬之助(印)
同 伝兵衛(印)
同 又兵衛(印)
同 清兵衛(印)
同村年寄 長兵衛(印)

村 衆 中

【屋敷譲渡証文】 神戸市垂水区、左博氏藏
○文政八年(一八二五)

- 譲り渡シ申屋敷之事
- 一屋舖式畝式歩 分米式斗四升
 - 一屋舖壹畝廿一步 分米壹斗七升
 - 一屋舖壹畝十五歩 分米壹斗五升
- 但し立木石共不殘

右之通我等所持ニ御座候処、当西御年貢銀ニ差詰り申ニ付、代銀八百式拾五匁隨ニ受取、譲り渡し申候処、其明白也、然ル上者此屋舖ニ付、脇ノ違乱妨申者毛頭無御座候、万一妨申者有之候ハ、加判之者罷出、急度埒明可申候、為後日、譲り渡し証文、仍而如件

文政八年
西十二月

屋舖譲り主
甚右衛門(印)
同村受人
作右衛門(印)
同村
九左衛門殿

前文之通相違無御座候ニ付奥印致候、以上

同村年寄
庄左衛門

【請山讓渡証文】 芦屋市三条町、五味五兵衛氏藏
○嘉永元年(一八四八)

譲り渡申請山証文之事
一合銀式百四拾匁也
宇山ば小屋北西并車場南
一請山式ヶ所
御冥加上納之義ハ
銀壹匁ハ毎年
左八郎兵衛殿江相渡候事

右請山地之義ハ、我等願主ニ而請山ニ相成候得共、村方請

山ニ致度与頼ニ付、右代銀式百四拾匁村方江隨ニ受取申候、其明白也、然ル上者此屋手ニ相成候故、貴殿江譲り渡し、依之村諸入用江助銀ニ致候処無相違、為後日之、譲り渡し証文、仍而如件

嘉永元申
十二月廿六日

三条村右請山
願主并譲主
左 八郎兵衛(印)
村惣代同断
頭百姓
市右衛門(印)
年寄
六兵衛(印)

前書之通村方一統為方ニ相成候ニ付

譲り渡し申奥印致候、以上

庄屋
左 八郎兵衛(印)

【見取山讓渡証文】 芦屋市三条町、五味五兵衛氏藏
○安政五年(一八五八)

譲り渡申見取山地之事
一銀式拾目也
字ねじ込東原当時立木共
一見取山ヶ所
但し御年貢米相増候ハ、貴殿公相勤可被成候
米四合

加、元利共急度返済可仕候、其時一言之申訳仕間敷候、為後日、一札、仍而如件

明和六丑年
十二月
借用人三条村百姓惣代
市兵衛(印)
同 重兵衛(印)
同村年寄 仁兵衛(印)
同断 忠兵衛(印)
同村庄屋 長兵衛(印)

同村
作兵衛殿

【建家借地証文】 芦屋市三条町、五味五兵衛氏藏
○安永二年(一七七三)

一札之事
一建家ヶ所、此地代御年貢壹ヶ年ニ付、壹斗五升宛相立可申候、其元右地面入用節ハ、何時ニ而も外之地江引除、家下地面相渡シ可申候
右建家外江質物ニ入申事、堅仕間敷候、為後日、地面借証文、仍如件

三条村
治兵衛(印)
同村請人
平兵衛(印)
同断
伊左衛門(印)
安永二己年三月

一家舖入用ニ付建家取除候時ハ
請人方引請世話
可仕候為其以上

前書之通違変申者無之候ニ付

奥印致候、以上
庄屋
左 八郎兵衛(印)

2、借用証文

【銀子借用証文】 芦屋市三条町、左武雄氏藏
○明和六年(一七六九)

借用銀子之事
一銀三百六拾目也
右之銀子当御勘定之節、上納差詰り借用仕、上納ニ相立申所実正也、限之義ハ来ル寅三月廿日切ニ、月巻歩利足

同 斷
同 斷
仁兵衛(印)
伝兵衛(印)

【屋敷借請証文】

芦屋市三条町、左武雄氏藏
○安永二年(一七七三)

借請申屋敷之支

字名越之川筋道ノ東 北横幅式四四尺
一屋敷卷ケ所 南横幅式四

右者番人明屋敷有之所、此度私不仕合ニ付、右屋敷村方ノ借請住居仕度旨、村御役人申へ願立候処、右屋敷御役人衆中取斗ニ而借請、住居申所相違無御座候、然ル上者年ニ村家別掛リ者急度相動可申候、右屋敷村方入用之節者、何時成共屋敷明ケ相渡シ可申候、為後日、一札仍而如件

安永二年
巳七月

三条村屋敷借リ主
藤兵衛(清印)
同村一家 四郎兵衛(清印)
同村証人 弥惣右衛門(清印)

三条村
役人衆中殿

3、雜

【預ケ銀出入願書】

芦屋市三条町、左武雄氏藏
○安永五年(一七七六)

乍恐御訴訟

預ケ銀出入

辻六郎左衛門様御代官所
摂州西成郡下福嶋村
多田屋伝之助借屋
福嶋屋平四郎
病氣ニ付代
嘉助
摂州武庫郡西宮浜東之町
魚屋源兵衛
相手
同所浜久保之町
同請人 神成屋助九郎
右助九郎病死仕候ニ付相手取不申候
同所浜東之町組頭 平兵衛
右役故相手取不申候
松平遠江守様御領分
摂州兎原郡三条村
治兵衛

一右之者共々儘成連判証文を以、明和四年亥年銀式百目預ケ置、此利閏月共百十八ケ月百四拾壹匁六分元利合三百四拾壹匁六分滞御座候ニ付、度々催促仕候得共埒明不申難義至極仕、下ニ而可仕様無御座候、乍恐御願奉申上候、何卒右之者共被為御召成下、銀子相渡具候様被為仰付被下候ハ、御慈悲難有奉存候

安永五年
申十二月十八日

代嘉助

右之通病氣相違無御座ニ付、乍恐奥印仕候、以上

庄屋
左右衛門

御奉行様

【ふち講儉約申定】

芦屋市三条町、左武雄氏藏
○文化十四年(一八一七)

婦ち講儉約申定

一婦ち講相当リ候節、是迄者昼飯ニ者酒肴ニにぎりめしニ而、東西ニ呑合致、夕飯ニ者本膳酒肴ニ而仕来、且又近年者村中娘メ并子供迄も両宿江呼合、翌日迄奇合申、大造之事候、以来者相止申、来酉年々儉約いたし、当分左之通申定候事

一年兩度米麦之掛もの并酒肴もの、先年々相究有之通
一屋飯本膳酒肴、先年々申定有之通ニ而相勤可申事
一手伝と申寄合候儀者、親子兄弟兩となり式軒之外、親類たりとも大勢寄合申間舖事
右儉約料として、宿老軒ニ附銀五匁づゝ、村方指出可申
支

右之通近年困窮ニ付、当分村中参会之上申定候、心得違無之様、取斗可被致候事

文化十四年
五月

村方

【銀札預証文】

芦屋市三条町、五味五兵衛氏藏
○弘化四年(一八四七)

預リ申銀札之事

一銀札壹貫五百目也
但月四朱利足定

右銀札儲ニ預リ申處実正也、然ル上八御入用次第、何時成とも返済可仕候、為後日、預リ証文、依而如件

弘化四年

正月廿四日

新在家村
柴屋清兵衛(印)

三条村
五兵衛殿

昭和卅六年三月廿五日発行

芦屋市史料拾遺

編集者 末 中 哲 夫

発行者 兵庫県芦屋市教育委員会

芦屋市精道町九三

印刷所 大宝印刷株式会社

京都市南区東九条西岩本町八

